

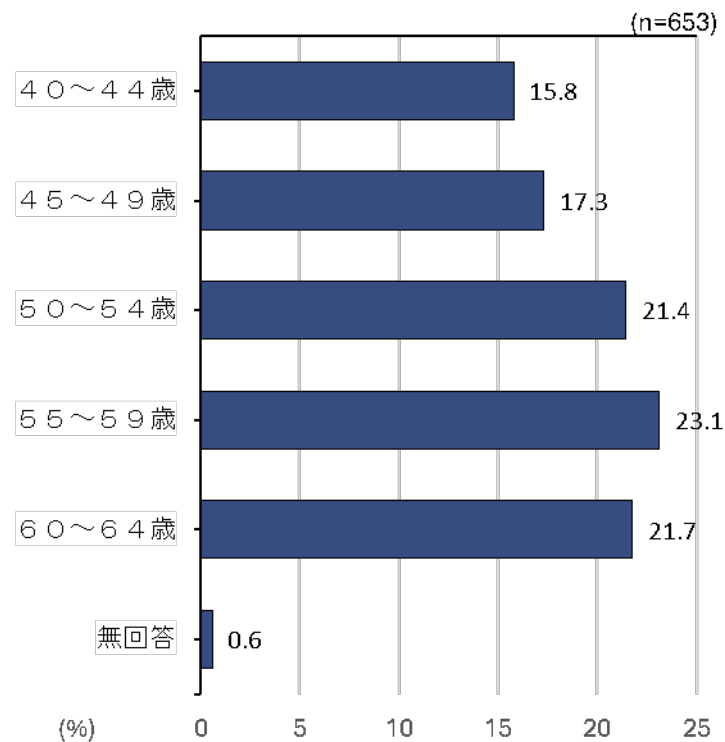
第4章 一般若年者調査

1. 回答者属性

(1) 年齢

あなたの年齢をお答えください。

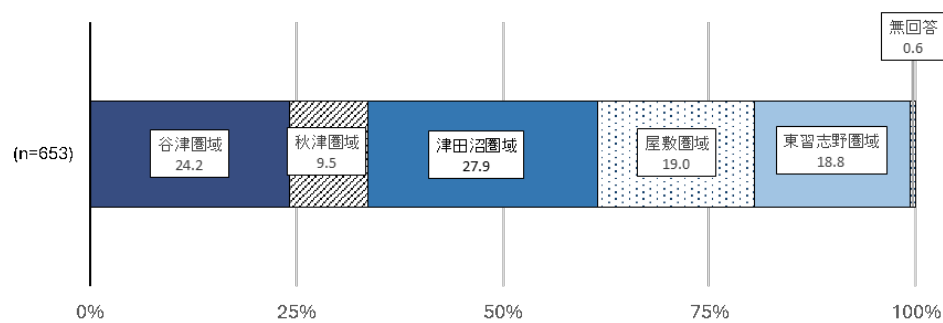
「55～59歳」が23.1%で最も多く、次いで「60～64歳」が21.7%となっている。



(2) 居住地区

お住いの地区名を教えてください。

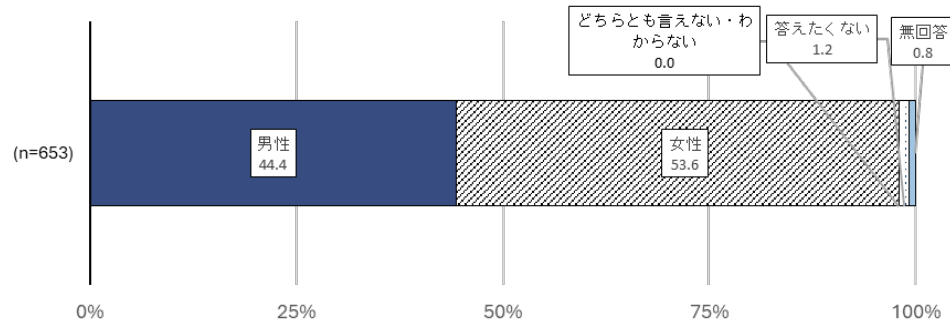
「津田沼圏域」が27.9%で最も多く、次いで「谷津圏域」が24.2%となっている。



(3) 性別

あなたの性別をお答えください。

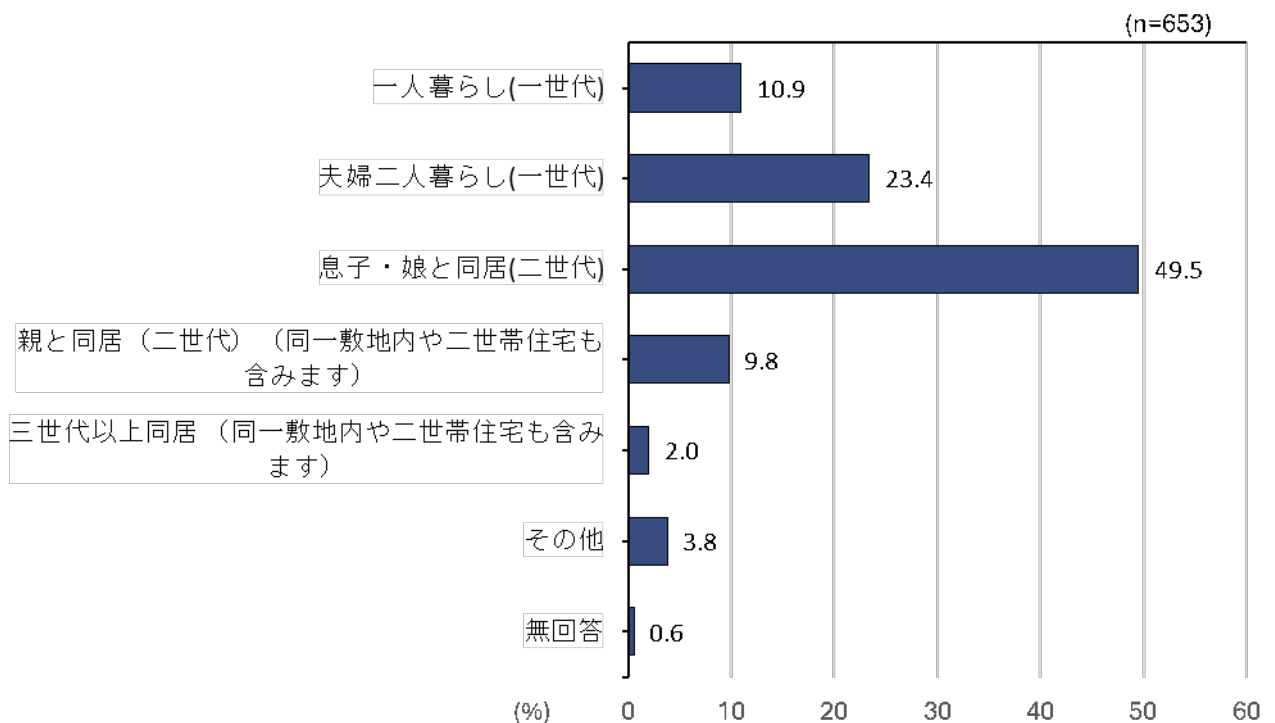
「女性」が53.6%で、「男性」が44.4%となっている。



(4) 家族構成

家族構成をお答えください。

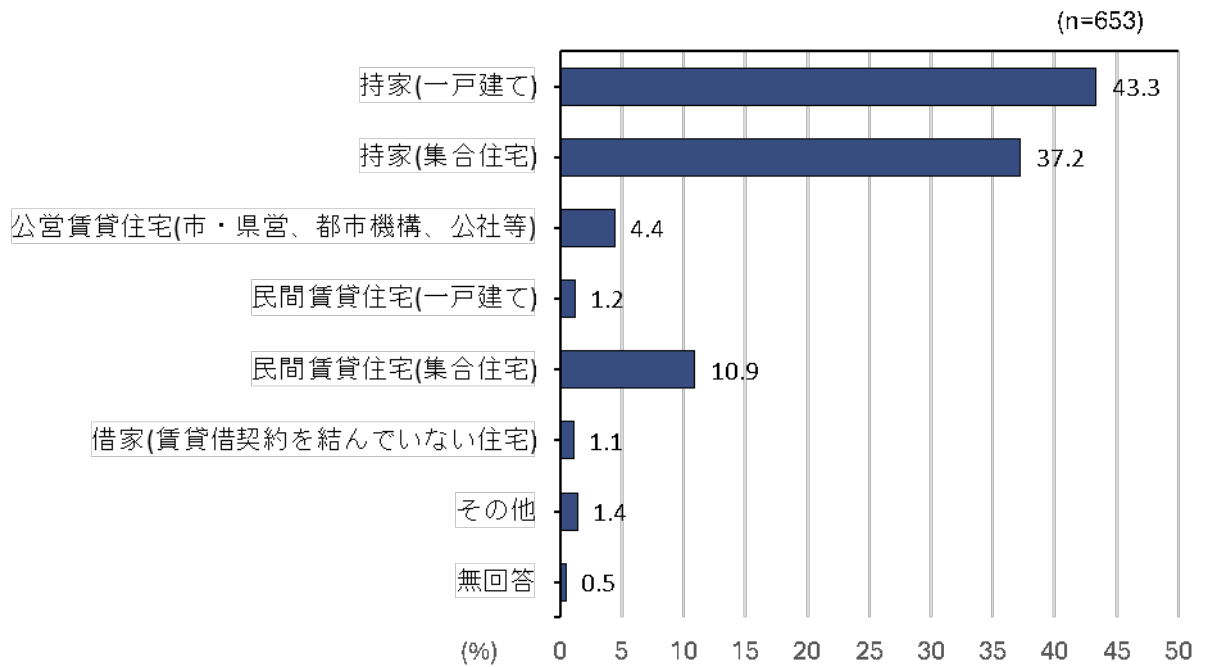
「息子・娘と同居(二世代)」が49.5%で最も多く、次いで「夫婦二人暮らし(一世代)」が23.4%となっている。



(5) 住まいの形態

お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。

「持家(一戸建て)」が43.3%で最も多く、次いで「持家(集合住宅)」が37.2%となっている。

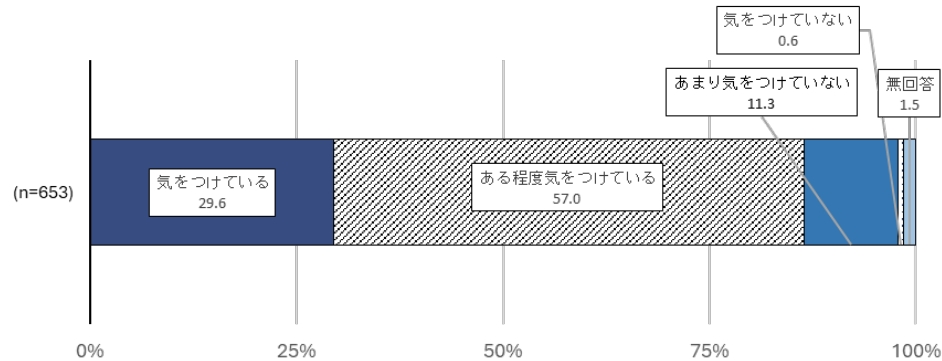


2. 健康について

(1) 健康への配慮

あなたは、日頃、自分の健康に気をつけていますか。

「ある程度気をつけている」が 57.0%で最も高く、次いで「気をつけている」が 29.6%となっている。



【年齢別比較】

各年齢層でみると、「ある程度気をつけている」が最も高くなっている。また、健康に気をつけている層(「気をつけている」「ある程度気をつけている」)の割合は、55 歳以上で 9 割を超えており、高い水準となっている。一方、健康に気をつけていない層(「あまり気をつけていない」「気をつけていない」)の割合は、年齢が若いほど高く、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられる。

上段:度数 下段:%	問6					
	合計	気をつけて いる	ある程度気 をつけてい る	あまり気 をつけてい ない	気をつけて いない	無回答
全体	653 100.0	193 29.6	372 57.0	74 11.3	4 0.6	10 1.5
40～44歳	103 100.0	28 27.2	54 52.4	19 18.4	2 1.9	-
45～49歳	113 100.0	32 28.3	60 53.1	19 16.8	-	2 1.8
50～54歳	140 100.0	33 23.6	86 61.4	16 11.4	1 0.7	4 2.9
55～59歳	151 100.0	47 31.1	92 60.9	11 7.3	-	1 0.7
60～64歳	142 100.0	52 36.6	78 54.9	9 6.3	1 0.7	2 1.4
無回答	4 100.0	1 25.0	2 50.0	-	-	1 25.0

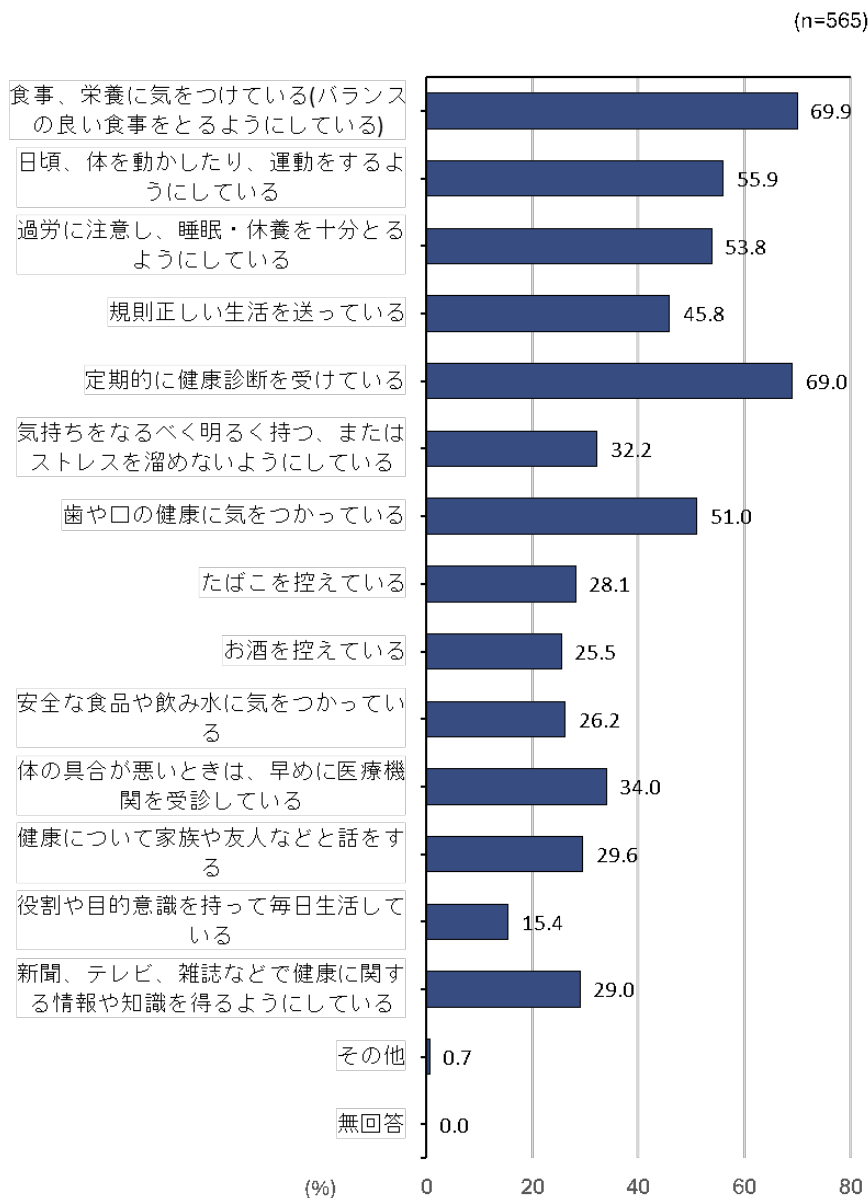
【性別比較】

性別でみると、健康に気をつけている層(「気をつけている」「ある程度気をつけている」)の割合は、女性が88.6%と最も高くなっている。一方、健康に気をつけていない層(「あまり気をつけていない」「気をつけていない」)の割合は、男性が14.8%と最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問6					
	合計	気をつけて いる	ある程度気 をつけてい る	あまり気をつ けていな い	気をつけて いない	無回答
全体	653	193	372	74	4	10
	100.0	29.6	57.0	11.3	0.6	1.5
男性	290	85	159	41	2	3
	100.0	29.3	54.8	14.1	0.7	1.0
女性	350	105	205	32	2	6
	100.0	30.0	58.6	9.1	0.6	1.7
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	2	5	1	-	-
	100.0	25.0	62.5	12.5	-	-
無回答	5	1	3	-	-	1
	100.0	20.0	60.0	-	-	20.0

「気を付けている」もしくは「ある程度気を付けている」を選択された方)何か実行していることがありますか。(〇はいくつでも)

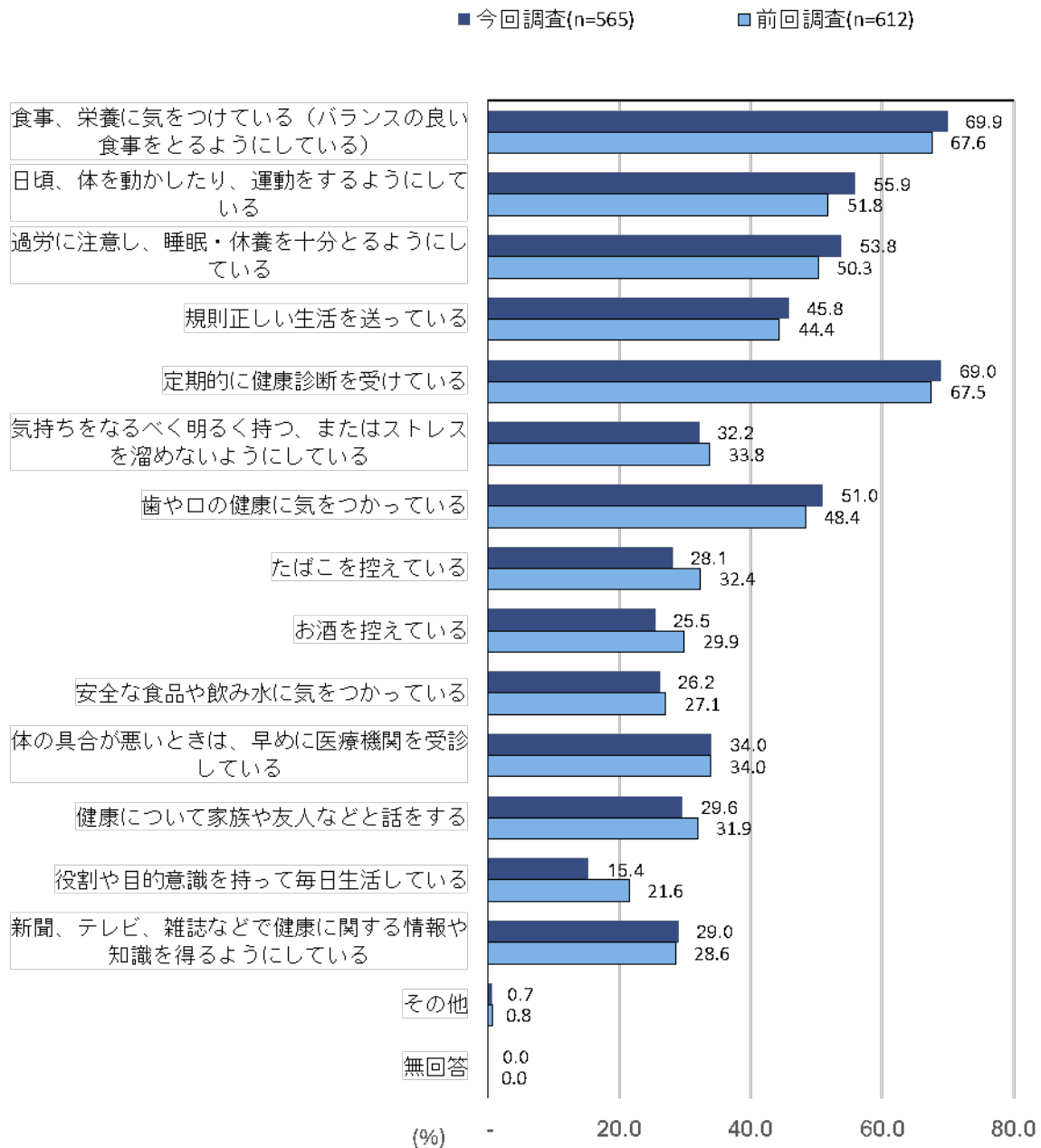
「食事、栄養に気を付けている(バランスの良い食事をとるようにしている)」が69.9%で最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」が69.0%となっている。その他、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(55.9%)、「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」(53.8%)、「歯や口の健康に気を付けている」(51.0%)、「規則正しい生活を送っている」(45.8%)、「体の具合が悪いときは、早めに医療機関を受診している」(34.0%)、「気持ちをなるべく明るく持つ、またはストレスを溜めないようにしている」(32.2%)が比較的高くなっている。



【経年比較】

前回調査と比較すると、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(51.8%→55.9%)や「歯や口の健康に気を付けている」(48.4%→51.0%)などで上昇している。

一方、「たばこを控えている」(32.4%→28.1%)や「お酒を控えている」(29.9%→25.5%)、「役割や目的意識を持って毎日生活している」(21.6%→15.4%)などで低下している。



【年齢別比較】

年齢別でみると、いずれの年代においても「食事、栄養に気をつけている」や「定期的に健康診断を受けている」が比較的高くなっており、「食事、栄養に気をつけている」は55歳以上で7割以上となっている。また、「食事、栄養に気をつけている」「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」「規則正しい生活を送っている」「定期的に健康診断を受けている」「健康について家族や友人などと話をする」「新聞、テレビ、雑誌などで健康に関する情報や知識を得るようにしている」は、いずれも60～64歳が最も高くなっている。

なお、「たばこを控えている」は40～44歳が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	食事、栄養 に気をつけている(パ ランスの良い 食事をする ようにして いる)	日頃、体を 動かしたり、 運動をす るように している	過労に注意 し、睡眠・ 休養を十分 とるように している	規則正しい 生活を送っ ている	定期的に健 康診断を受 けている	気持ちをな るべく明る く持つ、ま たはストレ スを溜めな いようにし ている	歯や口の健 康に気をつ かっている	たばこを控 えている
全体	565	395	316	304	259	390	182	288	159
	100.0	69.9	55.9	53.8	45.8	69.0	32.2	51.0	28.1
40～44歳	82	52	47	43	33	49	24	39	28
	100.0	63.4	57.3	52.4	40.2	59.8	29.3	47.6	34.1
45～49歳	92	63	46	46	43	63	31	46	25
	100.0	68.5	50.0	50.0	46.7	68.5	33.7	50.0	27.2
50～54歳	119	78	68	65	43	82	41	59	32
	100.0	65.5	57.1	54.6	36.1	68.9	34.5	49.6	26.9
55～59歳	139	103	78	76	68	99	45	75	37
	100.0	74.1	56.1	54.7	48.9	71.2	32.4	54.0	26.6
60～64歳	130	96	75	72	70	94	39	67	36
	100.0	73.8	57.7	55.4	53.8	72.3	30.0	51.5	27.7
無回答	3	3	2	2	2	3	2	2	1
	100.0	100.0	66.7	66.7	66.7	100.0	66.7	66.7	33.3

上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	お酒を控え ている	安全な食品 や飲み水に 気をつかっ ている	体の具合が 悪いとき は、早めに 医療機関を 受診してい る	健康につい て家族や友 人などと話 をする	役割や目的 意識を持っ て毎日生活 している	新聞、テレ ビ、雑誌な どで健康に 関する情報 や知識を得 るようにし ている	その他	無回答
全体	565	144	148	192	167	87	164	4	-
	100.0	25.5	26.2	34.0	29.6	15.4	29.0	0.7	-
40～44歳	82	21	21	20	20	11	17	-	-
	100.0	25.6	25.6	24.4	24.4	13.4	20.7	-	-
45～49歳	92	19	23	27	25	15	21	1	-
	100.0	20.7	25.0	29.3	27.2	16.3	22.8	1.1	-
50～54歳	119	35	34	47	30	22	31	1	-
	100.0	29.4	28.6	39.5	25.2	18.5	26.1	0.8	-
55～59歳	139	36	35	49	43	21	46	-	-
	100.0	25.9	25.2	35.3	30.9	15.1	33.1	-	-
60～64歳	130	33	34	48	48	17	48	2	-
	100.0	25.4	26.2	36.9	36.9	13.1	36.9	1.5	-
無回答	3	-	1	1	1	1	1	-	-
	100.0	-	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-

【性別比較】

性別でみると、男性では「定期的に健康診断を受けている」が76.6%と最も高く、次いで「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」(66.8%)、「食事、栄養に気をつけている」(64.8%)となっている。女性では「食事、栄養に気をつけている」が74.2%と最も高く、次いで「定期的に健康診断を受けている」(62.9%)、「歯や口の健康に気をつけている」(56.8%)、「過労に注意し、睡眠・休養を十分とるようにしている」(54.2%)となっている。また、「日頃、体を動かしたり、運動をするようにしている」は男性の方が高く、「食事、栄養に気をつけている」や「歯や口の健康に気をつけている」、「健康について家族や友人などと話をする」などは女性の方が高くなっている。

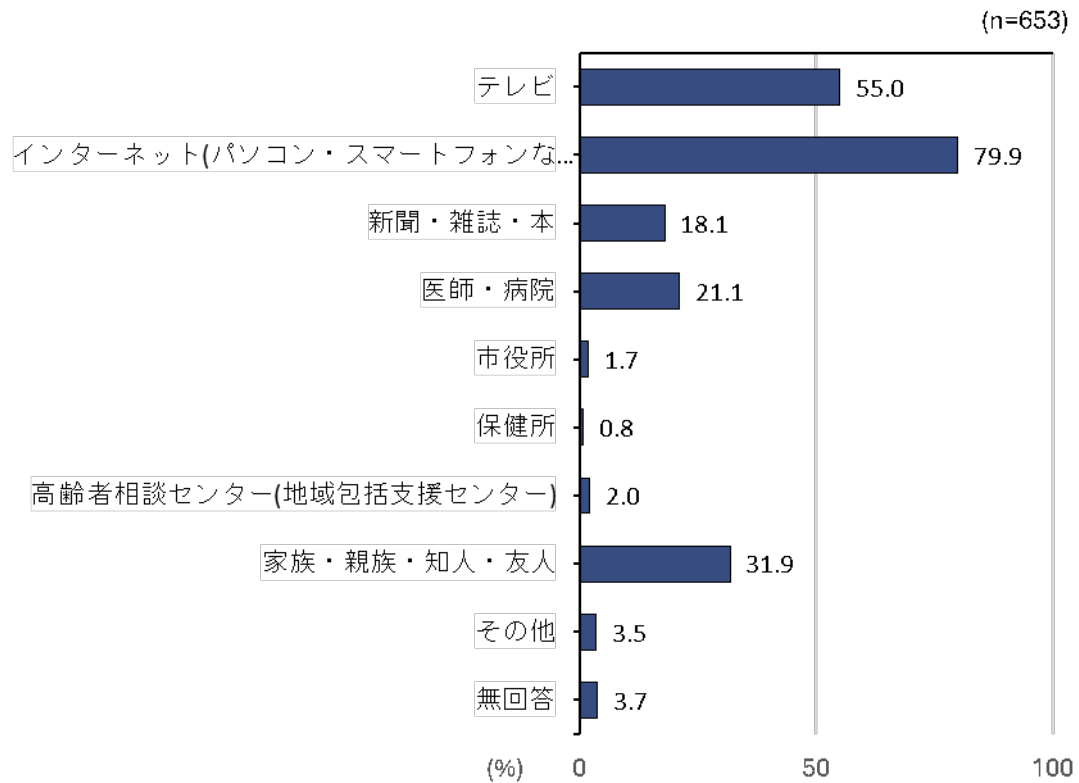
上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	食事、栄養 に気をつけている(パ ランスの良い 食事をする ようにして いる)	日頃、体を 動かしたり、運動を するように している	過労に注意 し、睡眠・ 休養を十分 とるように している	規則正しい 生活を送っ ている	定期的に健 康診断を受 けている	気持ちをな るべく明る く持つ、ま たはストレ スを溜めな いようにし ている	歯や口の健 康に気をつ かっている	たばこを控 えている
全体	565	395	316	304	259	390	182	288	159
	100.0	69.9	55.9	53.8	45.8	69.0	32.2	51.0	28.1
男性	244	158	163	132	101	187	65	106	78
	100.0	64.8	66.8	54.1	41.4	76.6	26.6	43.4	32.0
女性	310	230	149	168	154	195	114	176	80
	100.0	74.2	48.1	54.2	49.7	62.9	36.8	56.8	25.8
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	7	4	3	2	2	4	-	5	-
	100.0	57.1	42.9	28.6	28.6	57.1	-	71.4	-
無回答	4	3	1	2	2	4	3	1	1
	100.0	75.0	25.0	50.0	50.0	100.0	75.0	25.0	25.0

上段:回答数 下段:%	問6-1								
	合計	お酒を控え ている	安全な食品 や飲み水に 気をつかっ ている	体の具合が 悪いときは、早めに 医療機関を受診してい る	健康につい て家族や友 人などと話 をする	役割や目的 意識を持っ て毎日生活 している	新聞、テレ ビ、雑誌な どで健康に 関する情報 や知識を得 るようにし ている	その他	無回答
全体	565	144	148	192	167	87	164	4	-
	100.0	25.5	26.2	34.0	29.6	15.4	29.0	0.7	-
男性	244	63	51	76	48	31	50	2	-
	100.0	25.8	20.9	31.1	19.7	12.7	20.5	0.8	-
女性	310	80	94	113	116	55	111	2	-
	100.0	25.8	30.3	36.5	37.4	17.7	35.8	0.6	-
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	7	1	1	2	1	-	-	-	-
	100.0	14.3	14.3	28.6	14.3	-	-	-	-
無回答	4	-	2	1	2	1	3	-	-
	100.0	-	50.0	25.0	50.0	25.0	75.0	-	-

(2) 医療・介護情報の入手先

医療や介護の知識や情報を、何から得ていますか。(〇はいくつでも)

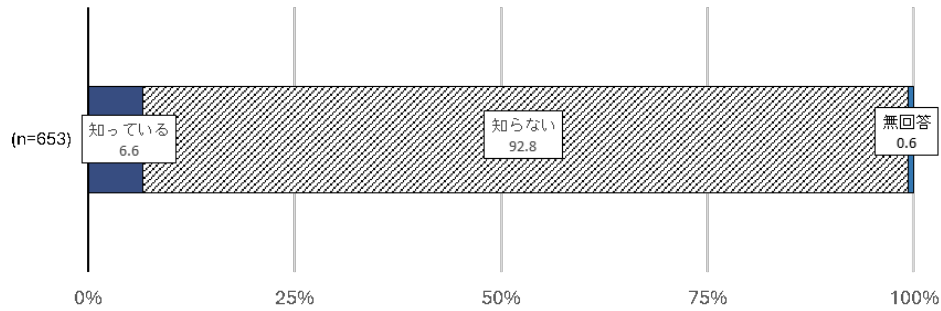
「インターネット(パソコン・スマートフォンなど)」が79.9%で最も高く、次いで「テレビ」が55.0%となっている。その他、「家族・親族・知人・友人」(31.9%)が比較的高くなっている。



(3) ACP の認知度

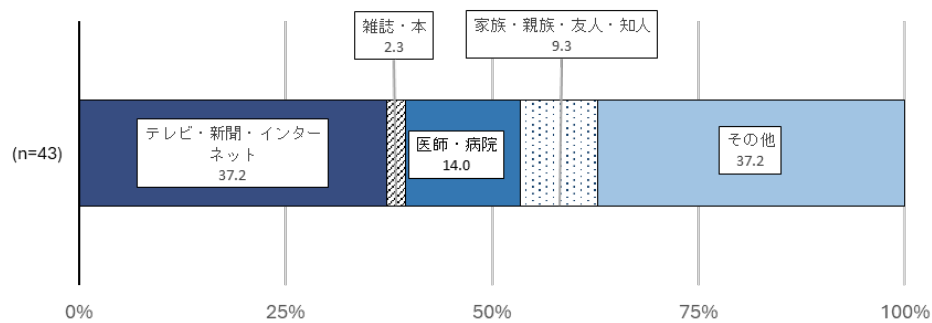
人生会議またはアドバンス・ケア・プランニング(ACP)という言葉を知っていますか。

「知らない」が 92.8%で最も高く、次いで「知っている」が 6.6%となっている。



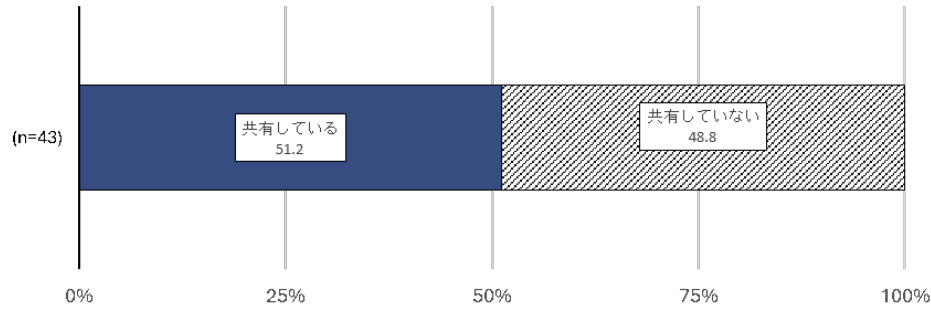
(「知っている」を選択された方) ACP という言葉をどこで知りましたか。

「テレビ・新聞・インターネット」が 37.2%で最も高く、次いで「医師・病院」が 14.0%となっている。



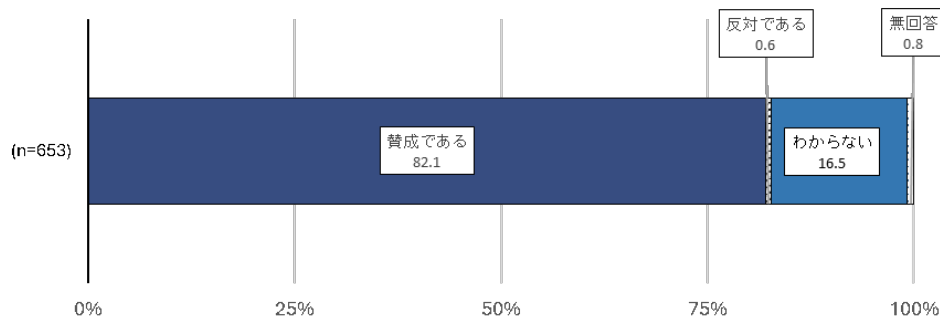
(「知っている」を選択された方)実際に家族や信頼する人たちと自分の考えを話し合ったり、共有していますか。

「共有している」が 51.2%で最も高く、次いで「共有していない」が 48.8%となっている。



人生の最終段階の医療・療養について、あなたの意思に沿った医療・療養を受けるためには、家族等や医療・ケアチームとあらかじめ話し合い、また繰り返し話し合うことが重要といわれています。このような話し合いを進めることについて、あなたはどのように思いますか。

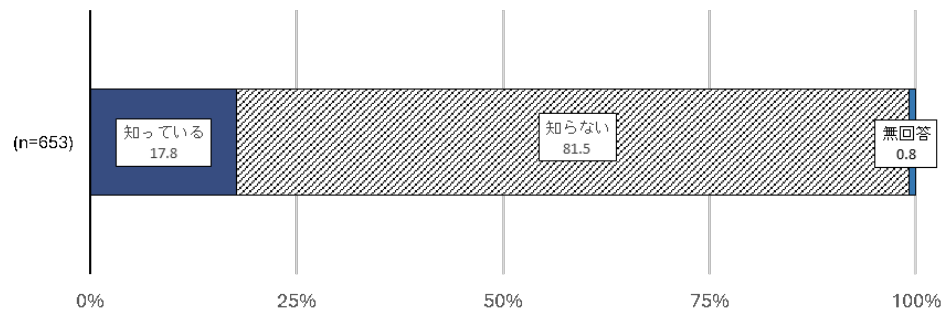
「賛成である」が 82.1%で最も高く、次いで「わからない」が 16.5%となっている。



(4) 認知症について

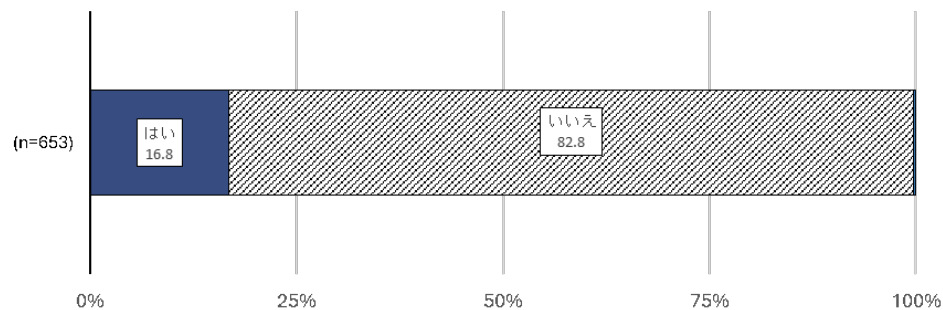
令和6年1月に認知症基本法が策定され、その中の考え方として「新しい認知症観」※の普及を推進しています。「新しい認知症観」を知っていますか。

「知らない」が81.5%で最も高く、次いで「知っている」が17.8%となっている。



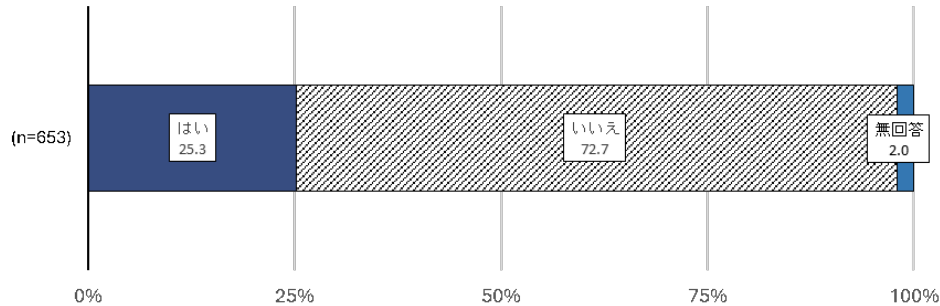
認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。

「いいえ」が82.8%で最も高く、次いで「はい」が16.8%となっている。



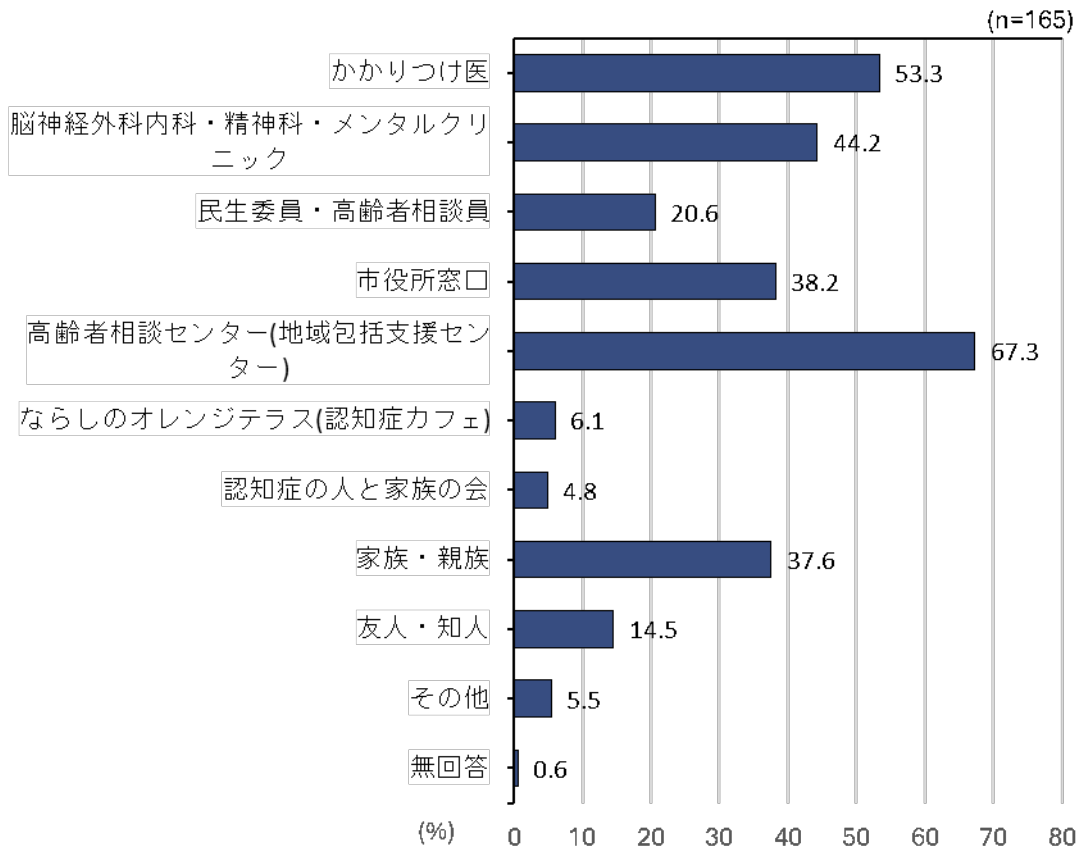
認知症に関する相談窓口を知っていますか。

「いいえ」が72.7%で最も高く、次いで「はい」が25.3%となっている。



(「はい」を選択された方)どこに相談すると思いますか、または相談しましたか。(〇はいくつでも)

「高齢者相談センター(地域包括支援センター)」が67.3%で最も高く、次いで「かかりつけ医」が53.3%となっている。その他、「脳神経外科内科・精神科・メンタルクリニック」(44.2%)、「市役所窓口」(38.2%)、「家族・親族」(37.6%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、40代では「かかりつけ医」が最も高いのに対し、50代以上は「高齢者相談センター」が最も高くなっている。

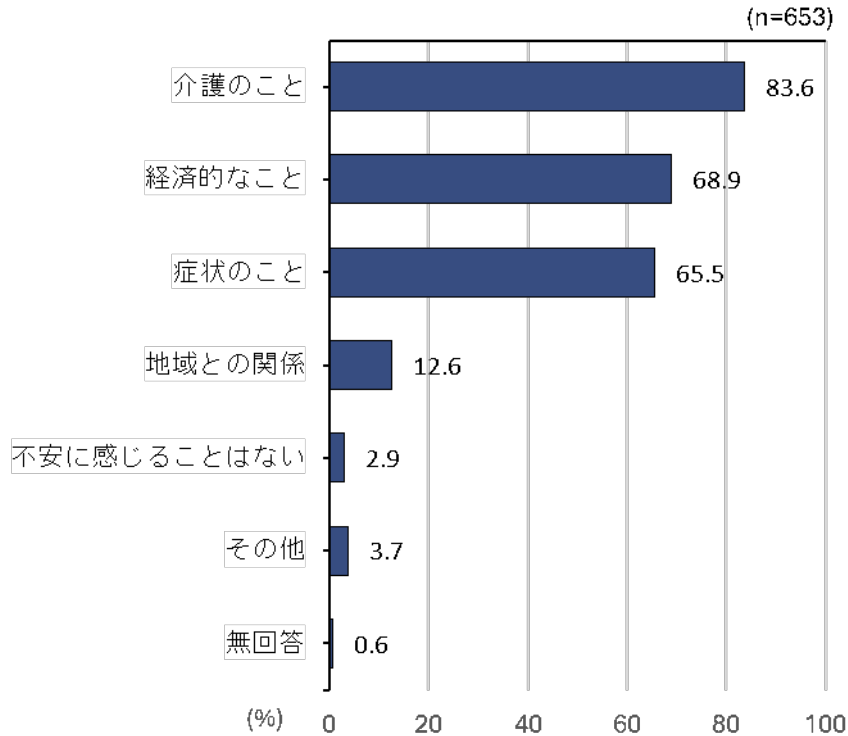
その他、「市役所窓口」、「家族・親族」、「友人・知人」は40～44歳が高い傾向にあるほか、「民生委員・高齢者相談員」は55～59歳が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問12-1						
	合計	かかりつけ 医	脳神経外科 内科・精神 科・メンタ ルクリニック	民生委員・ 高齢者相談 員	市役所窓口	高齢者相談 センター(地 域包括支援 センター)	ならしのオ レンジテラ ス(認知症カ フェ)
全体	165	88	73	34	63	111	10
	100.0	53.3	44.2	20.6	38.2	67.3	6.1
40～44歳	15	9	8	3	9	8	2
	100.0	60.0	53.3	20.0	60.0	53.3	13.3
45～49歳	20	14	7	3	10	12	2
	100.0	70.0	35.0	15.0	50.0	60.0	10.0
50～54歳	35	18	17	8	14	22	4
	100.0	51.4	48.6	22.9	40.0	62.9	11.4
55～59歳	48	21	19	13	13	35	-
	100.0	43.8	39.6	27.1	27.1	72.9	-
60～64歳	46	25	21	6	16	33	1
	100.0	54.3	45.7	13.0	34.8	71.7	2.2
無回答	1	1	1	1	1	1	1
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

上段:回答数 下段:%	問12-1					
	合計	認知症の人 と家族の会	家族・親族	友人・知人	その他	無回答
全体	165	8	62	24	9	1
	100.0	4.8	37.6	14.5	5.5	0.6
40～44歳	15	3	9	4	-	-
	100.0	20.0	60.0	26.7	-	-
45～49歳	20	-	9	3	-	-
	100.0	-	45.0	15.0	-	-
50～54歳	35	3	12	5	-	-
	100.0	8.6	34.3	14.3	-	-
55～59歳	48	-	14	6	5	1
	100.0	-	29.2	12.5	10.4	2.1
60～64歳	46	1	17	5	4	-
	100.0	2.2	37.0	10.9	8.7	-
無回答	1	1	1	1	-	-
	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-

自分自身が認知症になったときどうしたらいいのか、不安に感じることは何ですか。(〇はいくつでも)

「介護のこと」が83.6%で最も高く、次いで「経済的なこと」が68.9%となっている。その他、「症状のこと」(65.5%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、「介護のこと」「経済的なこと」「症状のこと」は、いずれの年代においても比較的高くなっており、なかでも「介護のこと」が最も高くなっている。また、「介護のこと」は60～64歳が最も高くなっている。なお、「経済的なこと」は40代が7割以上と高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問13							
	合計	介護のこと	経済的なこと	症状のこと	地域との関係	不安に感じることはない	その他	無回答
全体	653	546	450	428	82	19	24	4
	100.0	83.6	68.9	65.5	12.6	2.9	3.7	0.6
40～44歳	103	84	76	71	16	5	4	-
	100.0	81.6	73.8	68.9	15.5	4.9	3.9	-
45～49歳	113	96	83	70	14	4	2	1
	100.0	85.0	73.5	61.9	12.4	3.5	1.8	0.9
50～54歳	140	113	97	99	18	1	5	-
	100.0	80.7	69.3	70.7	12.9	0.7	3.6	-
55～59歳	151	125	102	101	17	6	7	-
	100.0	82.8	67.5	66.9	11.3	4.0	4.6	-
60～64歳	142	125	91	85	17	3	6	2
	100.0	88.0	64.1	59.9	12.0	2.1	4.2	1.4
無回答	4	3	1	2	-	-	-	1
	100.0	75.0	25.0	50.0	-	-	-	25.0

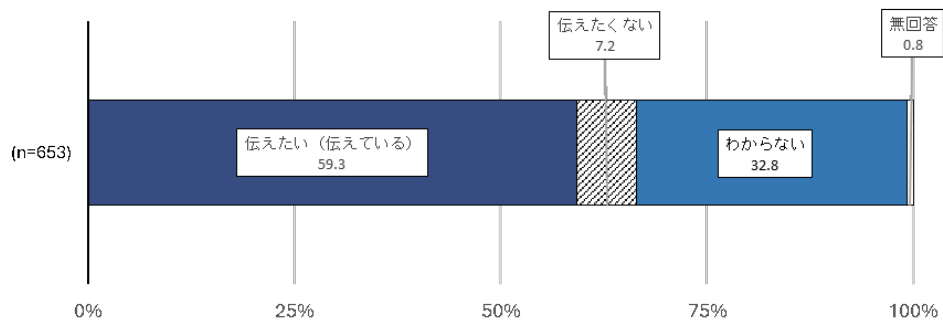
【性別比較】

性別でみると、「介護のこと」は男女ともに最も高くなっている。また、「症状のこと」や「地域との関係」は女性の方が高くなっており、「経済的なこと」は男性の方が高くなっている。

上段:回答数	問13							
下段:%	合計	介護のこと	経済的なこと	症状のこと	地域との関係	不安に感じることはない	その他	無回答
全体	653	546	450	428	82	19	24	4
	100.0	83.6	68.9	65.5	12.6	2.9	3.7	0.6
男性	290	241	203	178	27	10	8	2
	100.0	83.1	70.0	61.4	9.3	3.4	2.8	0.7
女性	350	295	240	243	54	9	16	1
	100.0	84.3	68.6	69.4	15.4	2.6	4.6	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	6	5	4	1	-	-	-
	100.0	75.0	62.5	50.0	12.5	-	-	-
無回答	5	4	2	3	-	-	-	1
	100.0	80.0	40.0	60.0	-	-	-	20.0

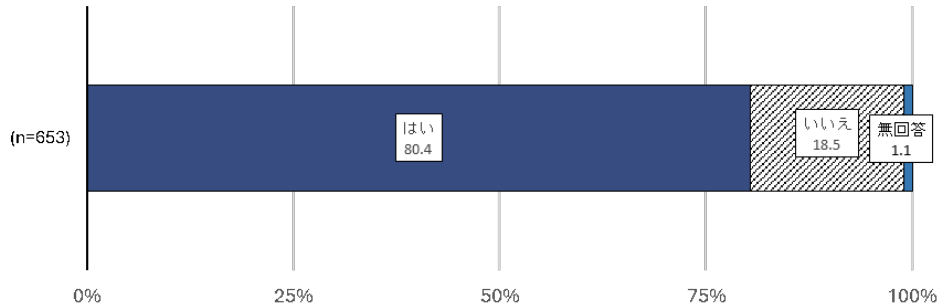
自分や家族が認知症になった場合、周囲に認知症であることを伝えたいと思いますか。

「伝えたい(伝えている)」が 59.3%で最も高く、次いで「わからない」が 32.8%となっている。



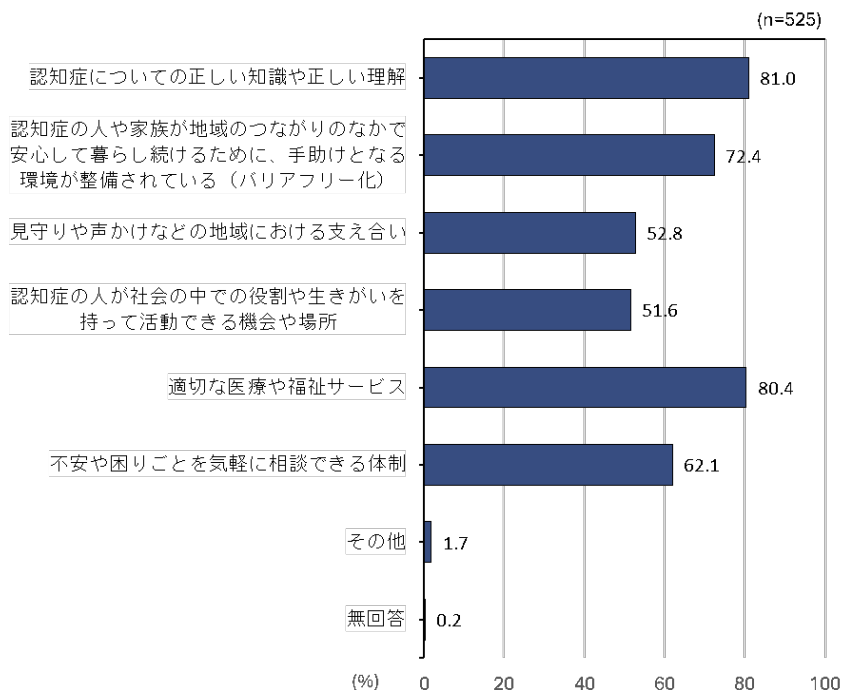
認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思いますか。

「はい」が80.4%で最も高く、次いで「いいえ」が18.5%となっている。



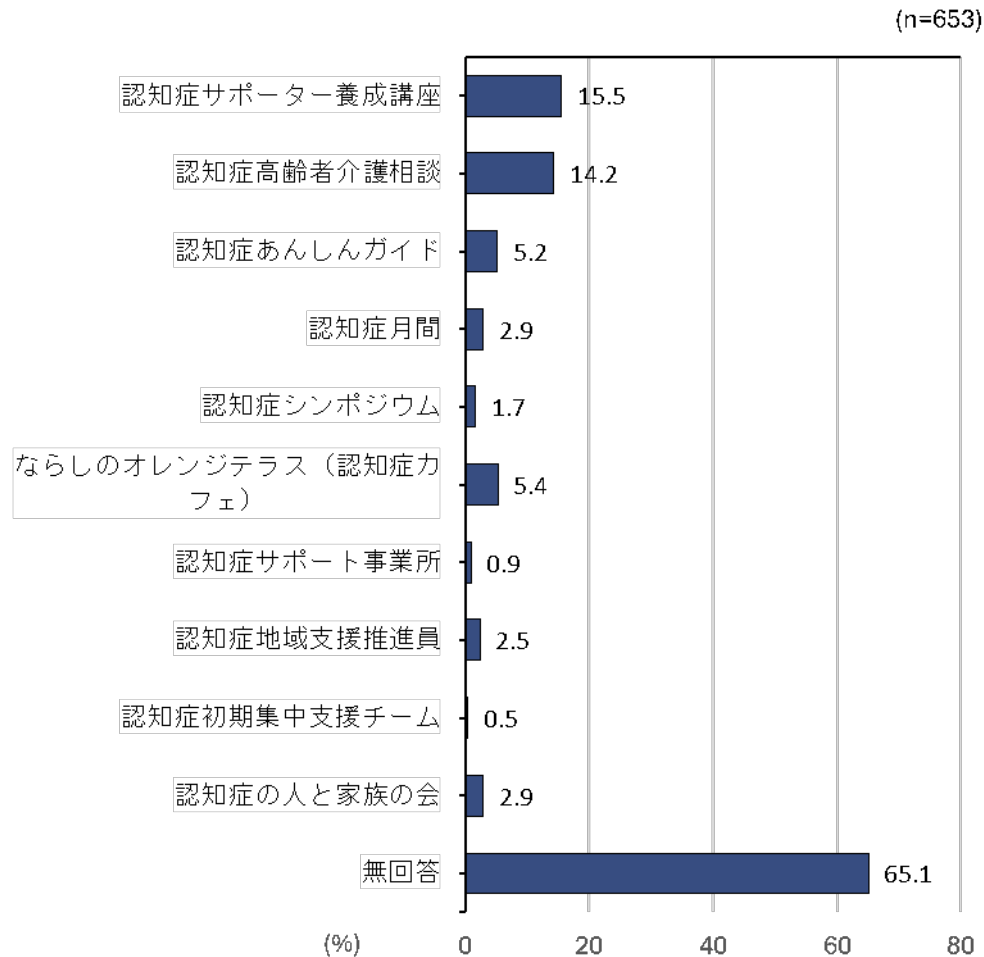
(「はい」を選択された方)認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる地域を作っていくためには必要であると思うことは何ですか。(○はいくつでも)

「認知症についての正しい知識や正しい理解」が81.0%で最も高く、次いで「適切な医療や福祉サービス」が80.4%となっている。その他、「認知症の人や家族が地域のつながりのなかで安心して暮らし続けるために、手助けとなる環境が整備されている(バリアフリー化)」(72.4%)、「不安や困りごとを気軽に相談できる体制」(62.1%)、「見守りや声かけなどの地域における支え合い」(52.8%)、「認知症の人が社会の中での役割や生きがいを持って活動できる機会や場所」(51.6%)が比較的高くなっている。



市が取り組んでいる認知症施策等で知っているものはありますか。

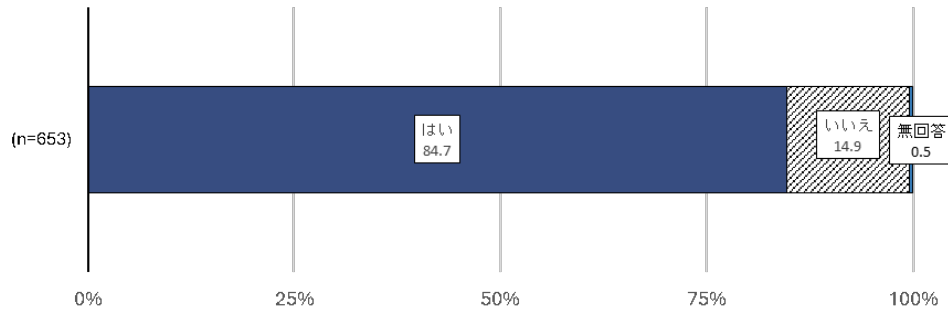
「認知症サポーター養成講座」が15.5%で最も高く、次いで「認知症高齢者介護相談」が14.2%となっている。



(5) 健康診査等の状況

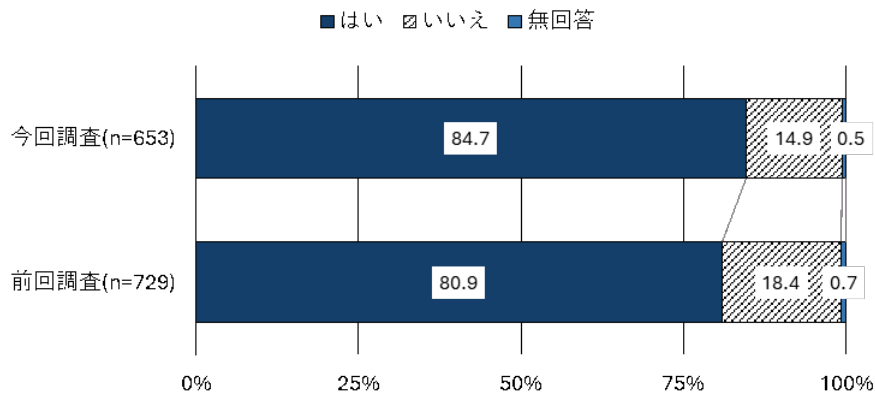
あなたは、1年以内に健康診査(特定健康診査・人間ドック・職場の健診等)を受けましたか。

「はい」が84.7%で最も高く、次いで「いいえ」が14.9%となっている。



【経年比較】

前回調査に比べ、受診割合がわずかに上昇している。



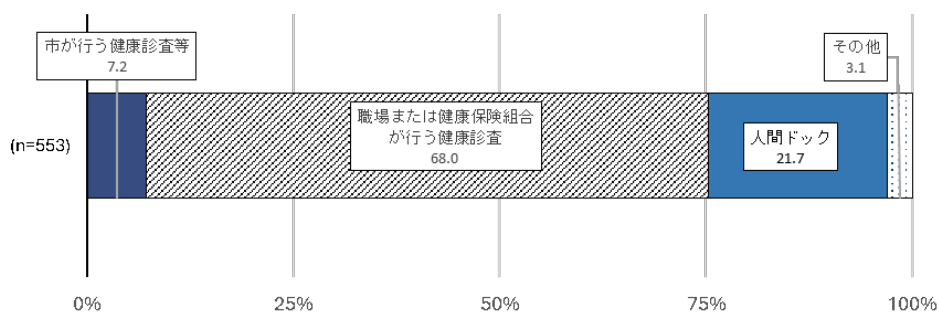
【性別比較】

性別でみると、受診割合は男性が91.0%で女性は79.7%であり、11.1ポイントの差がある。

上段:回答数	問17			
下段:%	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	553	97	3
	100.0	84.7	14.9	0.5
男性	290	264	25	1
	100.0	91.0	8.6	0.3
女性	350	279	70	1
	100.0	79.7	20.0	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-
答えたくない	8	6	2	-
	100.0	75.0	25.0	-
無回答	5	4	-	1
	100.0	80.0	-	20.0

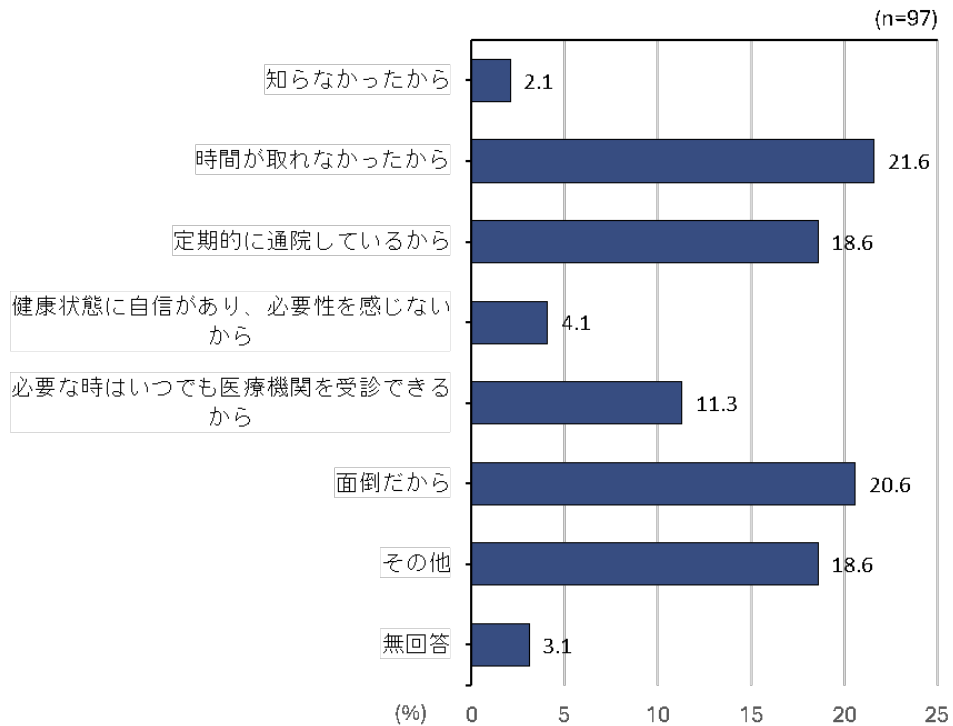
(「はい」を選択された方)どちらで健康診査を受けましたか。

「職場または健康保険組合が行う健康診査」が68.0%で最も高く、次いで「人間ドック」が21.7%となっている。



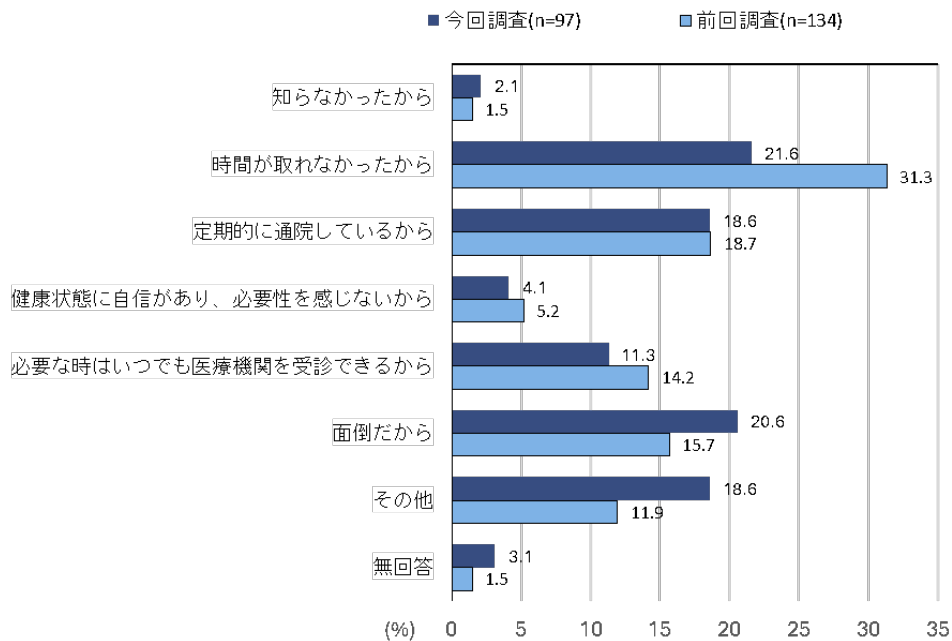
(「いいえ」を選択された方)健康診査を受けなかった理由は何ですか。

「時間が取れなかったから」が21.6%で最も高く、次いで「面倒だから」が20.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「時間が取れなかったから」が9.7ポイント下がり、「面倒だから」が4.9ポイント上昇している。



【年齢別】

年齢別でみると、「時間が取れなかったから」はいずれの年代でも2割前後となっており、45～49歳で28.6%と最も高くなっている。また、「面倒だから」は40～54歳で比較的高く、特に50～54歳で30.0%と高くなっている。一方、「定期的に通院しているから」は55～59歳で31.8%、「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」は60～64歳で17.4%と、それぞれ高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問17-2								
	合計	知らなかつたから	時間が取れなかったから	定期的に通院しているから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	面倒だから	その他	無回答
全体	97	2	21	18	4	11	20	18	3
	100.0	2.1	21.6	18.6	4.1	11.3	20.6	18.6	3.1
40～44歳	18	1	3	1	2	2	5	4	-
	100.0	5.6	16.7	5.6	11.1	11.1	27.8	22.2	-
45～49歳	14	-	4	2	2	1	4	1	-
	100.0	-	28.6	14.3	14.3	7.1	28.6	7.1	-
50～54歳	20	-	4	2	-	2	6	5	1
	100.0	-	20.0	10.0	-	10.0	30.0	25.0	5.0
55～59歳	22	-	5	7	-	2	3	3	2
	100.0	-	22.7	31.8	-	9.1	13.6	13.6	9.1
60～64歳	23	1	5	6	-	4	2	5	-
	100.0	4.3	21.7	26.1	-	17.4	8.7	21.7	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

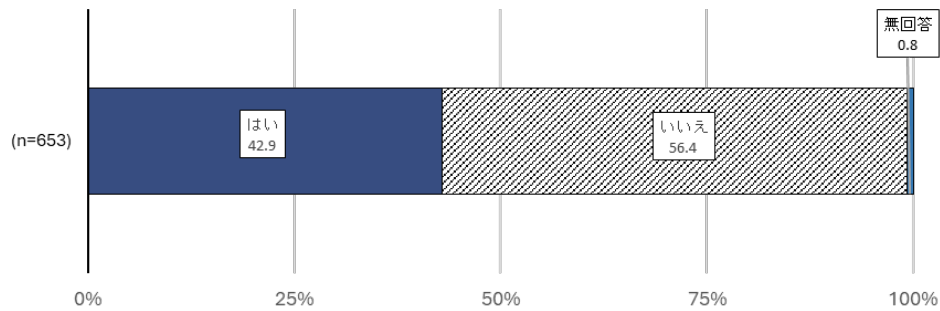
【性別比較】

性別でみると、「時間が取れなかったから」は男女ともに2割程度となっている。また、「面倒だから」は男性で28.0%と女性(17.1%)に比べて高くなっている。一方、「定期的に通院しているから」や「必要な時はいつでも医療機関を受診できるから」は女性の方が高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問17-2								
	合計	知らなかつたから	時間が取れなかったから	定期的に通院しているから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	必要な時はいつでも医療機関を受診できるから	面倒だから	その他	無回答
全体	97	2	21	18	4	11	20	18	3
	100.0	2.1	21.6	18.6	4.1	11.3	20.6	18.6	3.1
男性	25	2	5	3	2	-	7	5	1
	100.0	8.0	20.0	12.0	8.0	-	28.0	20.0	4.0
女性	70	-	15	15	2	11	12	13	2
	100.0	-	21.4	21.4	2.9	15.7	17.1	18.6	2.9
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	2	-	1	-	-	-	1	-	-
	100.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-

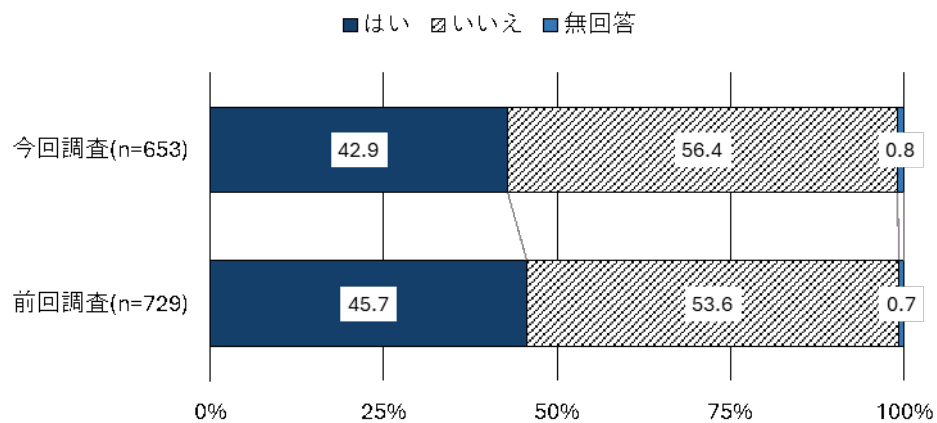
あなたは、1年以内にがん検診を受けましたか。

「いいえ」が56.4%で最も高く、次いで「はい」が42.9%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、受診割合がわずかに上昇している。



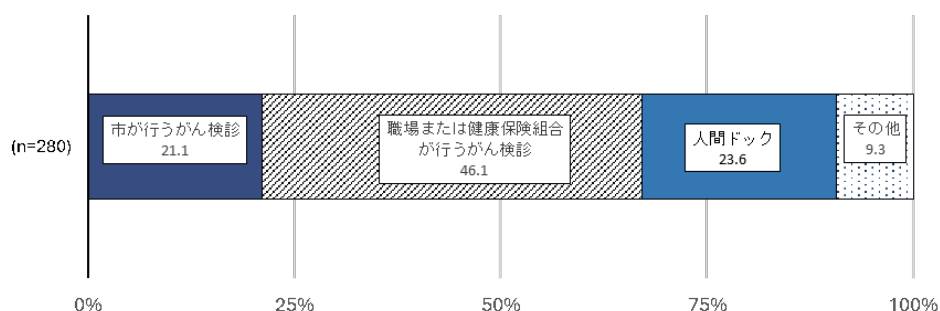
【性別比較】

性別でみると、女性の受診割合が 56.6%と男性よりも 13.7 ポイント高い。

上段:回答数 下段:%	問18			
	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	280	368	5
	100.0	42.9	56.4	0.8
男性	290	74	214	2
	100.0	25.5	73.8	0.7
女性	350	198	150	2
	100.0	56.6	42.9	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	5	3	-
	100.0	62.5	37.5	-
無回答	5	3	1	1
	100.0	60.0	20.0	20.0

(「はい」を選択された方)どちらでがん検診を受けましたか。

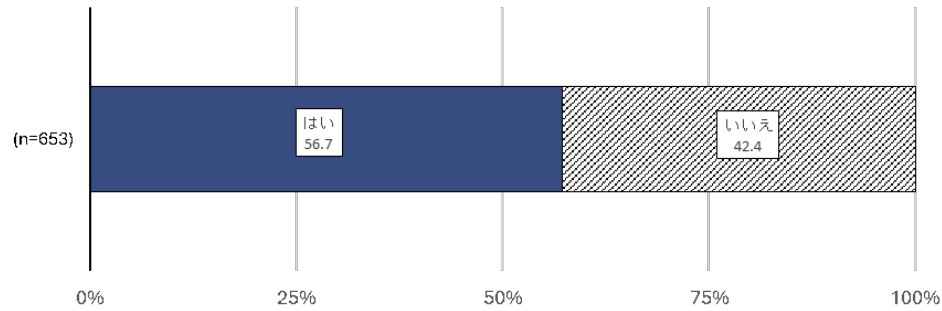
「職場または健康保険組合が行うがん検診」が 46.1%で最も高く、次いで「人間ドック」が 23.6%となっている。



(6) 口腔機能の状況

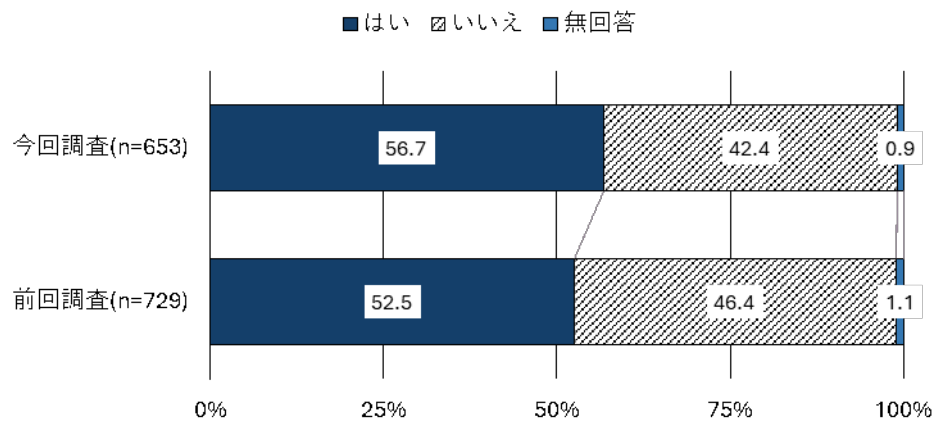
あなたは、1年以内に歯科健康診査を受けましたか。

「はい」が56.7%で最も高く、次いで「いいえ」が42.4%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、受診割合がわずかに上昇している。



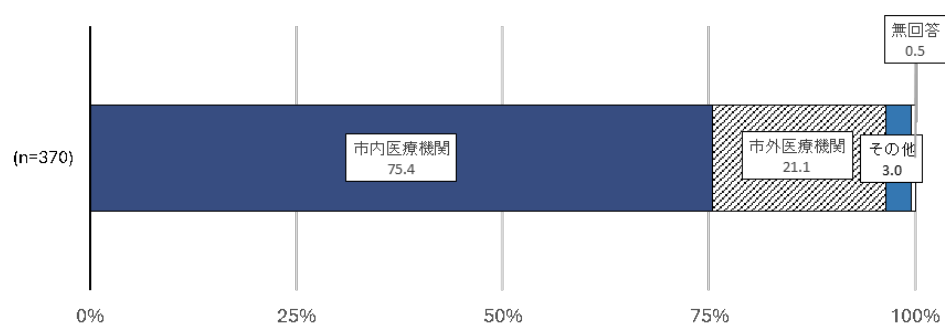
【性別比較】

性別でみると、女性の受診割合が64.3%と男性よりも17.4ポイント高い。

上段:回答数 下段:%	問19			
	合計	はい	いいえ	無回答
全体	653	370	277	6
	100.0	56.7	42.4	0.9
男性	290	136	152	2
	100.0	46.9	52.4	0.7
女性	350	225	122	3
	100.0	64.3	34.9	0.9
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-
	-	-	-	-
答えたくない	8	7	1	-
	100.0	87.5	12.5	-
無回答	5	2	2	1
	100.0	40.0	40.0	20.0

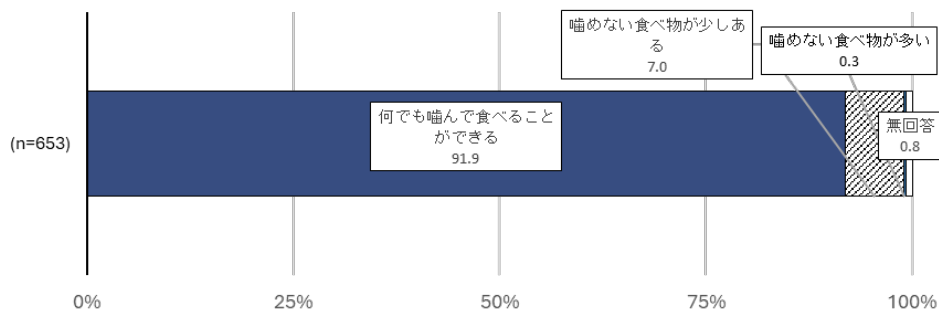
(「はい」を選択された方)どちらで歯科健康診査を受けましたか。

「市内医療機関」が75.4%で最も高く、次いで「市外医療機関」が21.1%となっている。



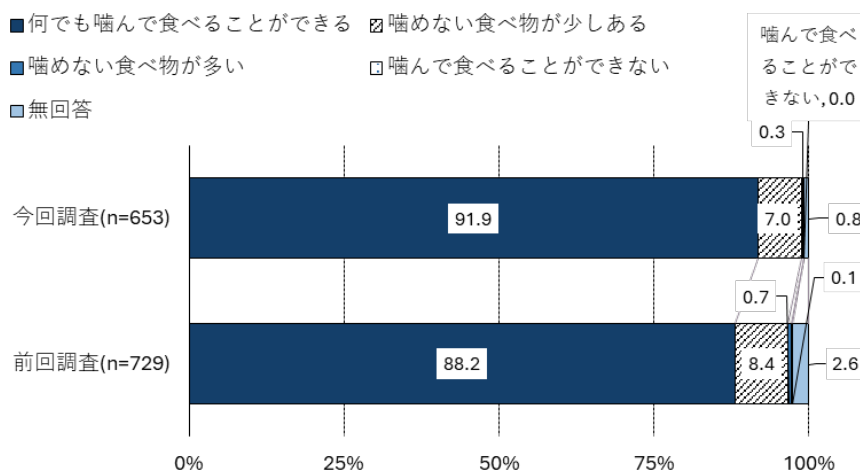
あなたは、ものを噛んで食べるとき、どのような状態ですか。(※入れ歯を使っても結構です。)

「何でも噛んで食べることができる」が91.9%で最も高く、次いで「噛めない食べ物が少しある」が7.0%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「何でも噛んで食べることができる」がわずかに上昇している。

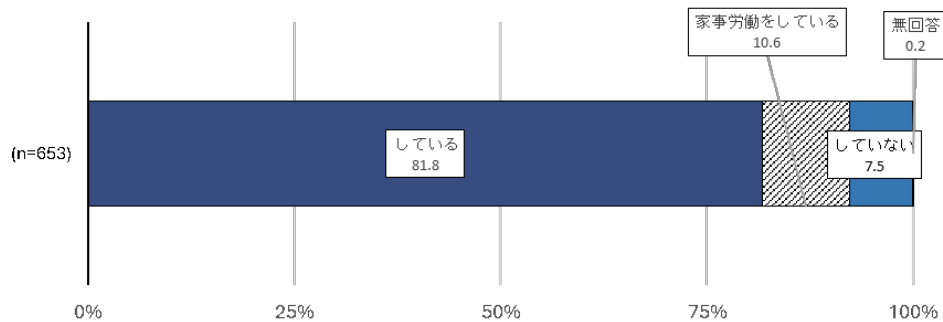


3. 就労や社会参画などについて

(1) 就労の状況

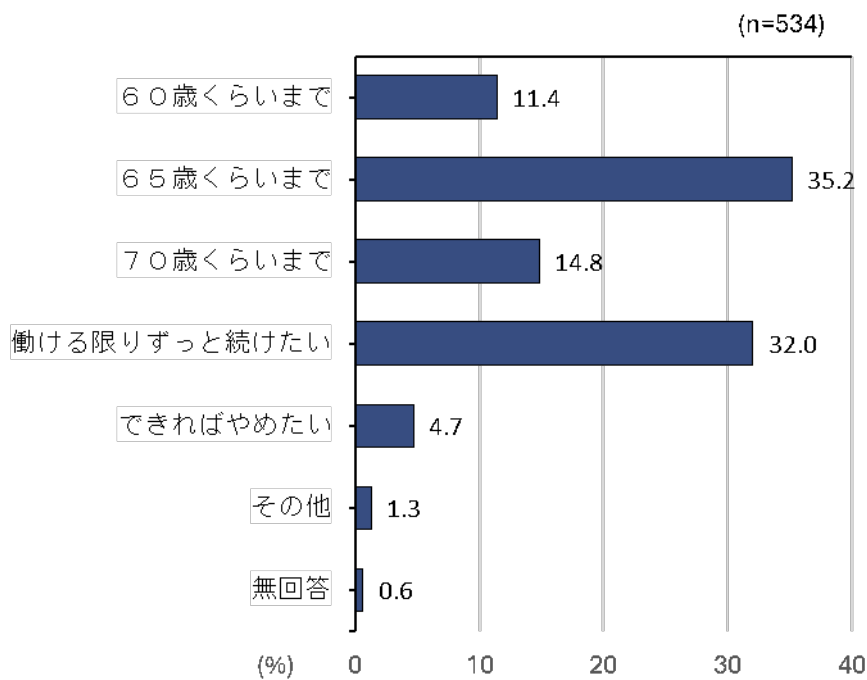
あなたは、現在、仕事をしていますか。

「している」が81.8%で最も高く、次いで「家事労働をしている」が10.6%となっている。



(「している」を選択された方) あなたは何歳ぐらいまで働きたいと思いますか。

「65歳くらいまで」が35.2%で最も高く、次いで「働ける限りずっと続けたい」が32.0%となっている。

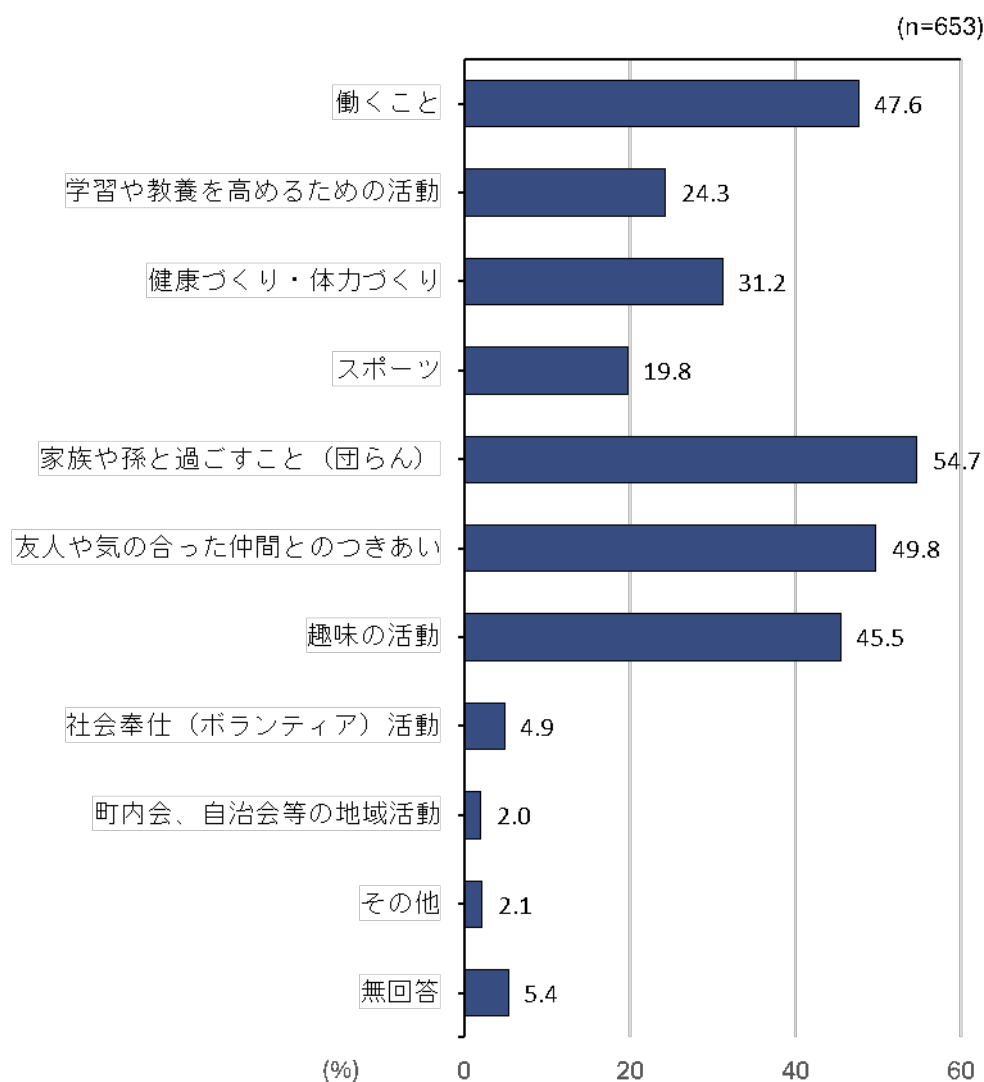


(2) 生きがいや今後やりたいこと

あなたが現在まで行っていることで、生きがいを感じるのとはどんなことですか。また、今後やってみたい(続けたい)ことはどんなことですか。(〇はそれぞれいくつでも)

① 生きがいを感じること

「家族や孫と過ごすこと(団らん)」が54.7%で最も高く、次いで「友人や気の合った仲間とのつきあい」が49.8%となっている。その他、「働くこと」(47.6%)、「趣味の活動」(45.5%)、「健康づくり・体力づくり」(31.2%)が比較的高くなっている。



第4章 一般若年者調査

【年齢別比較】

年齢別でみると、55～59歳のみ「友人や気の合った仲間とのつきあい」が57.0%と最も高く、それ以外の年代では「家族や孫と過ごすこと(団らん)」が最も高い。「働くこと」は45～49歳が最も高く、「健康づくり・体力づくり」「スポーツ」は55歳以上が比較的高くなっている。

上段:回答数	問22①											
下段:%	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	311	159	204	129	357	325	297	32	13	14	35
	100.0	47.6	24.3	31.2	19.8	54.7	49.8	45.5	4.9	2.0	2.1	5.4
40～44歳	103	48	31	31	26	62	53	50	7	2	1	2
	100.0	46.6	30.1	30.1	25.2	60.2	51.5	48.5	6.8	1.9	1.0	1.9
45～49歳	113	60	30	31	17	69	58	51	8	4	1	5
	100.0	53.1	26.5	27.4	15.0	61.1	51.3	45.1	7.1	3.5	0.9	4.4
50～54歳	140	59	24	40	17	80	67	62	5	1	3	11
	100.0	42.1	17.1	28.6	12.1	57.1	47.9	44.3	3.6	0.7	2.1	7.9
55～59歳	151	71	33	50	37	79	86	77	4	3	5	4
	100.0	47.0	21.9	33.1	24.5	52.3	57.0	51.0	2.6	2.0	3.3	2.6
60～64歳	142	72	41	52	32	65	58	57	8	3	4	12
	100.0	50.7	28.9	36.6	22.5	45.8	40.8	40.1	5.6	2.1	2.8	8.5
無回答	4	1	-	-	-	2	3	-	-	-	-	1
	100.0	25.0	-	-	-	50.0	75.0	-	-	-	-	25.0

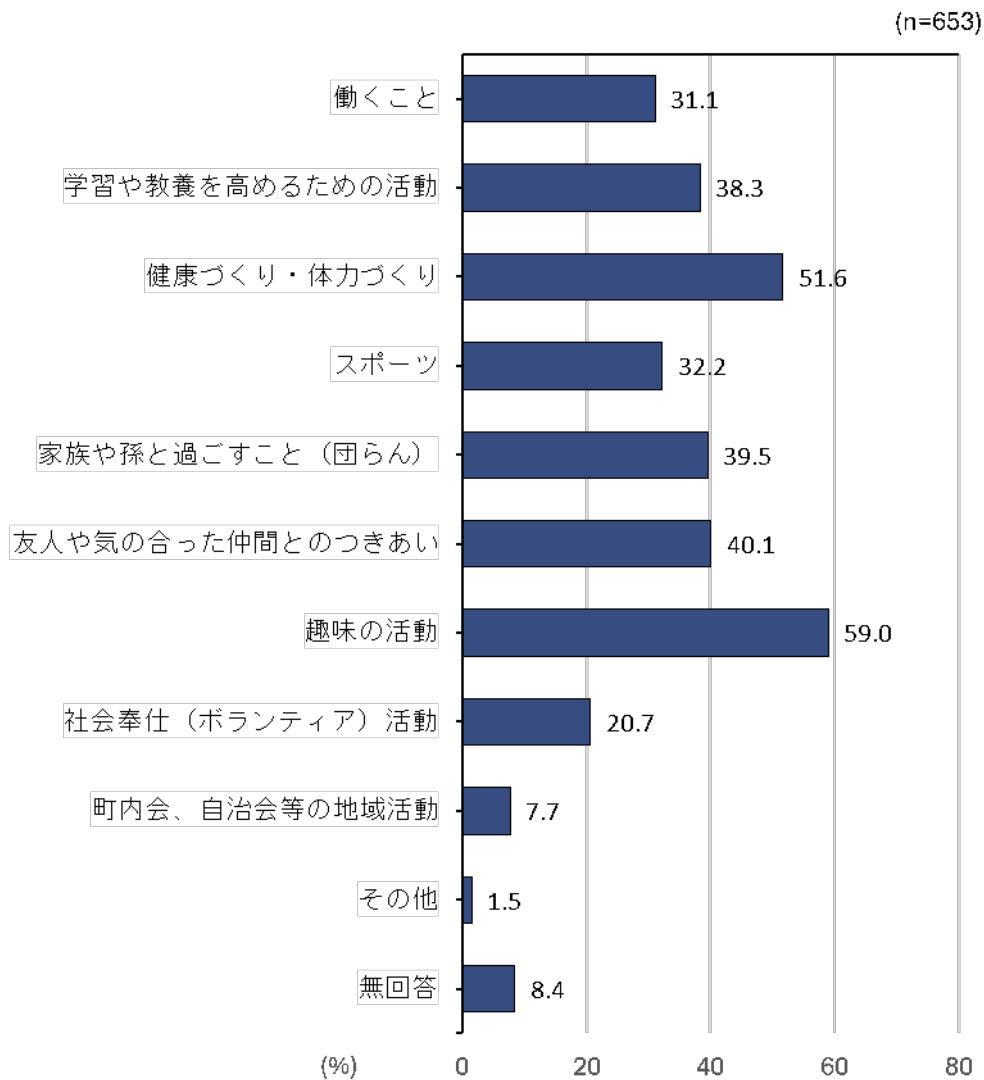
【性別比較】

性別でみると、「家族や孫と過ごすこと」が男女ともに最も高い。「友人や気の合った仲間とのつきあい」や「社会奉仕(ボランティア)活動」は女性の方が高く、「健康づくり・体力づくり」や「スポーツ」は男性の方が高くなっている。

上段:回答数	問22①											
下段:%	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	311	159	204	129	357	325	297	32	13	14	35
	100.0	47.6	24.3	31.2	19.8	54.7	49.8	45.5	4.9	2.0	2.1	5.4
男性	290	134	74	104	82	151	108	139	8	4	6	8
	100.0	46.2	25.5	35.9	28.3	52.1	37.2	47.9	2.8	1.4	2.1	2.8
女性	350	172	84	99	44	201	209	156	24	9	8	25
	100.0	49.1	24.0	28.3	12.6	57.4	59.7	44.6	6.9	2.6	2.3	7.1
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	3	1	1	3	2	4	2	-	-	-	1
	100.0	37.5	12.5	12.5	37.5	25.0	50.0	25.0	-	-	-	12.5
無回答	5	2	-	-	-	3	4	-	-	-	-	1
	100.0	40.0	-	-	-	60.0	80.0	-	-	-	-	20.0

②今後やってみたいこと

「趣味の活動」が59.0%で最も高く、次いで「健康づくり・体力づくり」が51.6%となっている。その他、「友人や気の合った仲間とのつきあい」(40.1%)、「家族や孫と過ごすこと(団らん)」(39.5%)、「学習や教養を高めるための活動」(38.3%)、「スポーツ」(32.2%)、「働くこと」(31.1%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、60～64歳のみ「健康づくり・体力づくり」が最も高く、その他の年代では「趣味の活動」が最も高くなっている。また、「スポーツ」「友人や気の合った仲間とのつきあい」は55～59歳が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問22②											
	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	203	250	337	210	258	262	385	135	50	10	55
	100.0	31.1	38.3	51.6	32.2	39.5	40.1	59.0	20.7	7.7	1.5	8.4
40～44歳	103	29	40	56	37	34	32	68	18	8	2	7
	100.0	28.2	38.8	54.4	35.9	33.0	31.1	66.0	17.5	7.8	1.9	6.8
45～49歳	113	39	46	55	35	42	50	73	27	8	1	7
	100.0	34.5	40.7	48.7	31.0	37.2	44.2	64.6	23.9	7.1	0.9	6.2
50～54歳	140	43	47	77	43	56	55	84	30	11	1	13
	100.0	30.7	33.6	55.0	30.7	40.0	39.3	60.0	21.4	7.9	0.7	9.3
55～59歳	151	51	62	76	55	70	68	88	31	14	4	6
	100.0	33.8	41.1	50.3	36.4	46.4	45.0	58.3	20.5	9.3	2.6	4.0
60～64歳	142	40	54	72	39	55	55	71	28	8	2	21
	100.0	28.2	38.0	50.7	27.5	38.7	38.7	50.0	19.7	5.6	1.4	14.8
無回答	4	1	1	1	1	1	2	1	1	1	-	1
	100.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0

【性別比較】

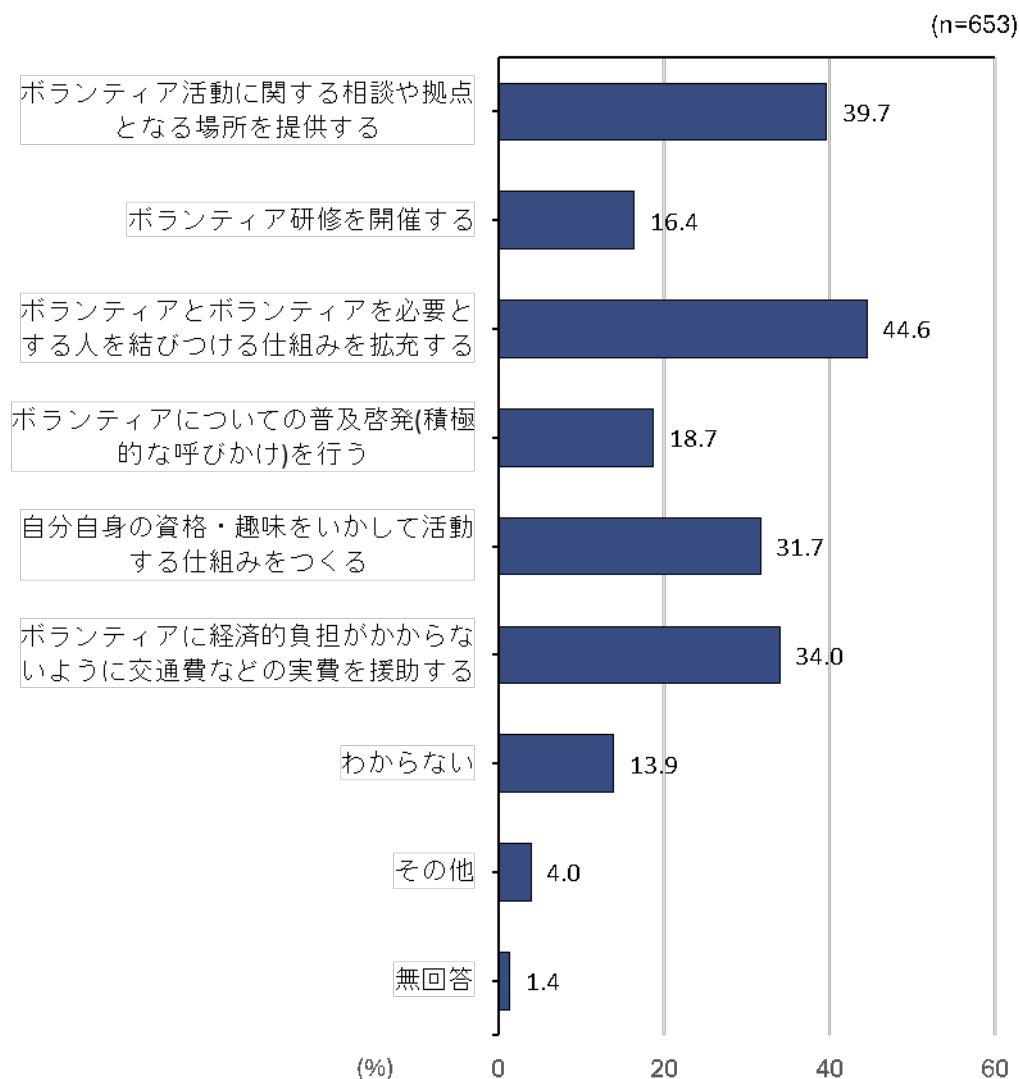
性別でみると、「趣味の活動」は男女ともに最も高くなっている。また、「スポーツ」や「趣味の活動」は男性の方が高く、それ以外の項目は概ね女性の方が高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問22②											
	合計	働くこと	学習や教養を高めるための活動	健康づくり・体力づくり	スポーツ	家族や孫と過ごすこと(団らん)	友人や気の合った仲間とのつきあい	趣味の活動	社会奉仕(ボランティア)活動	町内会、自治会等の地域活動	その他	無回答
全体	653	203	250	337	210	258	262	385	135	50	10	55
	100.0	31.1	38.3	51.6	32.2	39.5	40.1	59.0	20.7	7.7	1.5	8.4
男性	290	79	104	141	97	111	101	180	48	18	3	19
	100.0	27.2	35.9	48.6	33.4	38.3	34.8	62.1	16.6	6.2	1.0	6.6
女性	350	120	143	190	107	143	156	202	86	31	7	34
	100.0	34.3	40.9	54.3	30.6	40.9	44.6	57.7	24.6	8.9	2.0	9.7
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	2	2	4	5	2	2	1	-	-	-	1
	100.0	25.0	25.0	50.0	62.5	25.0	25.0	12.5	-	-	-	12.5
無回答	5	2	1	2	1	2	3	2	1	1	-	1
	100.0	40.0	20.0	40.0	20.0	40.0	60.0	40.0	20.0	20.0	-	20.0

4. 地域における交流、支え合いの状況

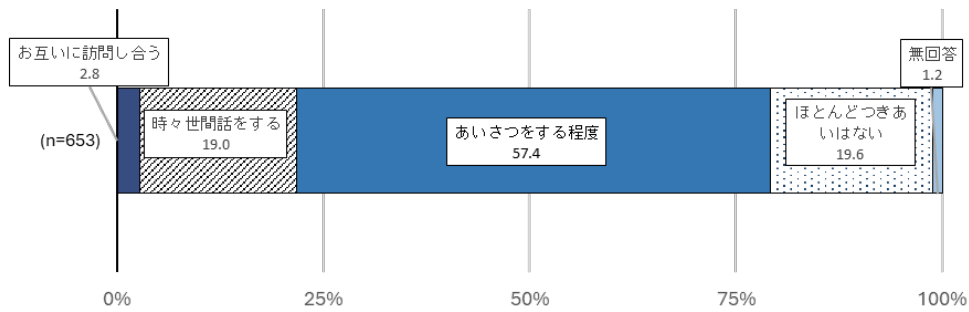
今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「ボランティアとボランティアを必要とする人を結びつける仕組みを拡充する」が44.6%で最も高く、次いで「ボランティア活動に関する相談や拠点となる場所を提供する」が39.7%となっている。その他、「ボランティアに経済的負担がかからないように交通費などの実費を援助する」(34.0%)、「自分自身の資格・趣味をいかして活動する仕組みをつくる」(31.7%)が比較的高くなっている。



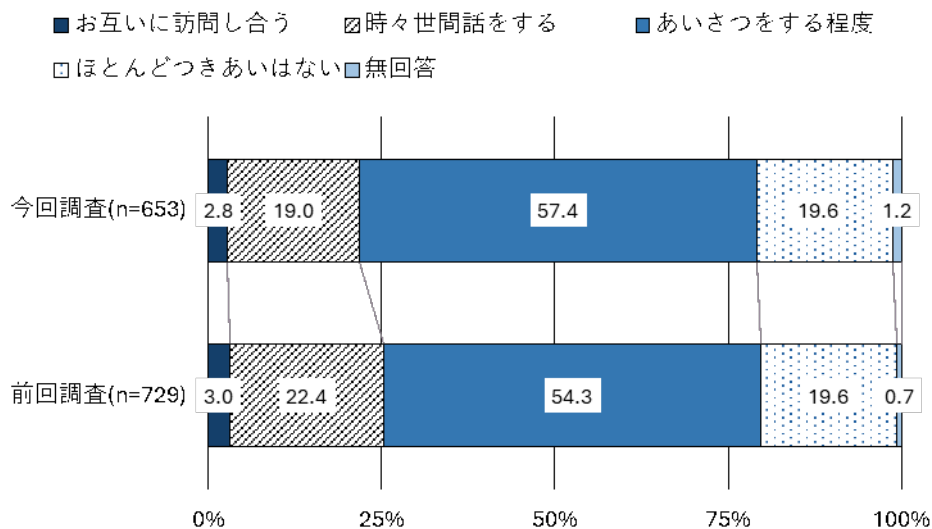
あなたは、隣近所とどの程度のつきあいをしていますか。

「あいさつをする程度」が57.4%で最も高く、次いで「ほとんどつきあいはない」が19.6%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較して、「お互いに訪問し合う」「時々世間話をする」はそれぞれ下がり、「あいさつをする程度」がわずかに上昇している。



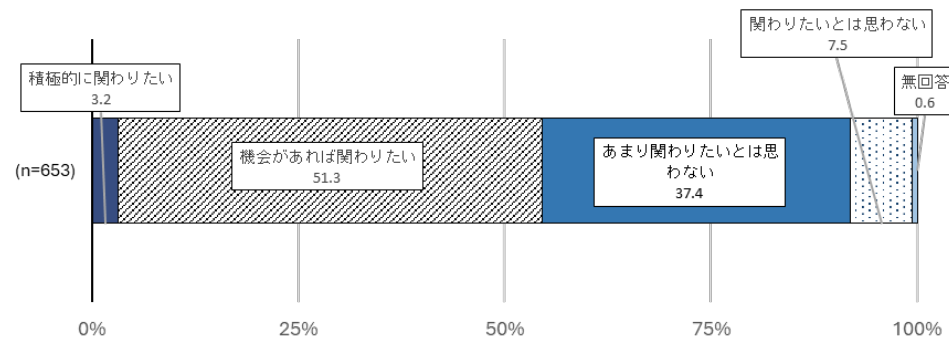
【性別比較】

性別でみると、「あいさつをする程度」が男女ともに最も高くなっている。また、「時々世間話をする」は女性(24.3%)の方が男性(12.4%)より高く、「ほとんどつきあいはない」は男性(22.1%)の方が女性(16.9%)より高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問24					
	合計	お互いに訪 問し合う	時々世間話 をする	あいさつを する程度	ほとんどつ きあいはない	無回答
全体	653	18	124	375	128	8
	100.0	2.8	19.0	57.4	19.6	1.2
男性	290	5	36	182	64	3
	100.0	1.7	12.4	62.8	22.1	1.0
女性	350	12	85	190	59	4
	100.0	3.4	24.3	54.3	16.9	1.1
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	1	-	2	5	-
	100.0	12.5	-	25.0	62.5	-
無回答	5	-	3	1	-	1
	100.0	-	60.0	20.0	-	20.0

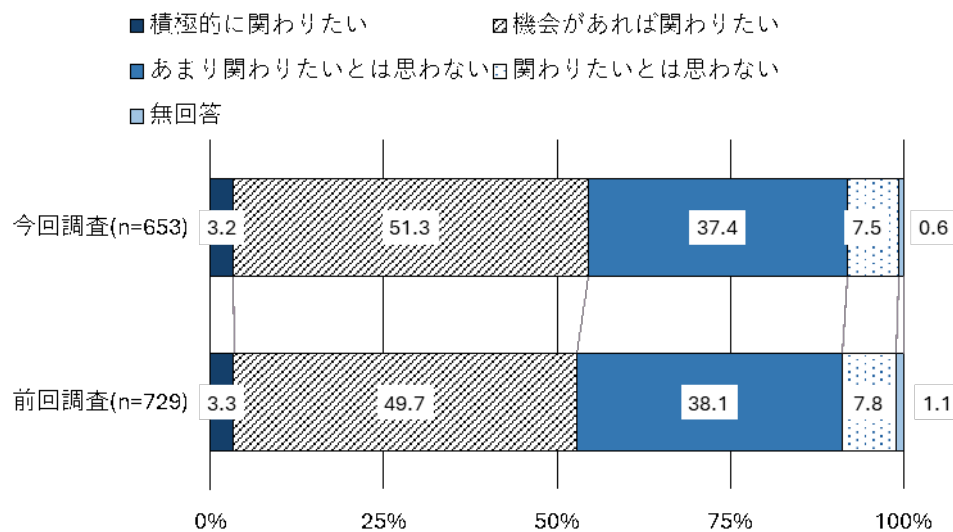
あなたは、隣近所の方々とどの程度望まれていますか。

「機会があれば関わりたい」が51.3%で最も高く、次いで「あまり関わりたいとは思わない」が37.4%となっている。



【経年比較】

前回調査と比較しても概ね同程度の結果となっている。



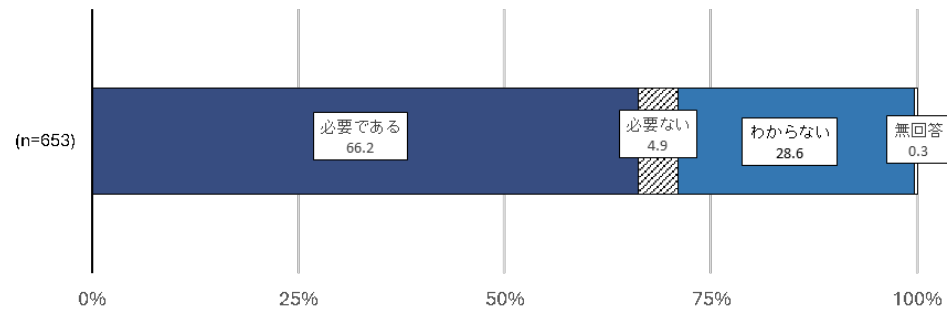
【性別比較】

性別でみると、男女ともに「機会があれば関わりたい」が最も高くなっている。また、関わりたいと思う割合（「積極的に関わりたい」「機会があれば関わりたい」）は女性が59.7%で男性（49.7%）よりも高くなっている。

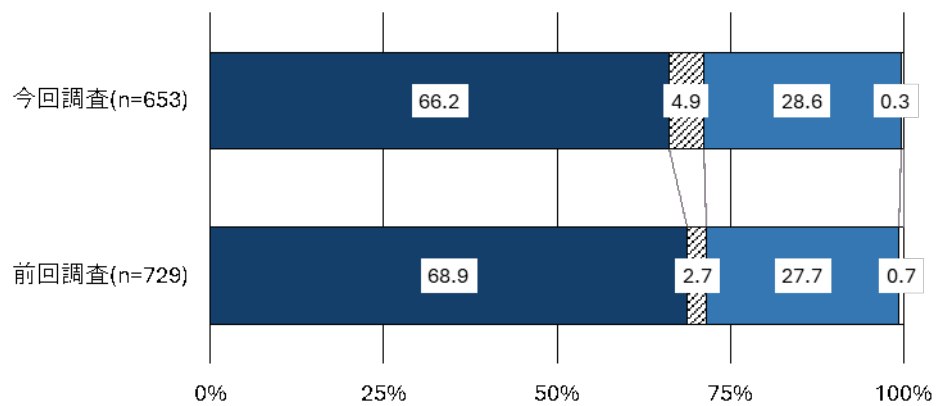
上段:回答数 下段:%	問25					
	合計	積極的に 関わりたい	機会があ れば関わ りたい	あまり関 わりたい とは思 わない	関わら ないと思 わな い	無回答
全体	653	21	335	244	49	4
	100.0	3.2	51.3	37.4	7.5	0.6
男性	290	8	136	111	34	1
	100.0	2.8	46.9	38.3	11.7	0.3
女性	350	13	196	125	14	2
	100.0	3.7	56.0	35.7	4.0	0.6
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	-	2	5	1	-
	100.0	-	25.0	62.5	12.5	-
無回答	5	-	1	3	-	1
	100.0	-	20.0	60.0	-	20.0

独居世帯や高齢者世帯が近年増えていますが、隣近所や地域で高齢者を支えることが必要だと思いますか。

「必要である」が66.2%で最も高く、次いで「わからない」が28.6%となっている。



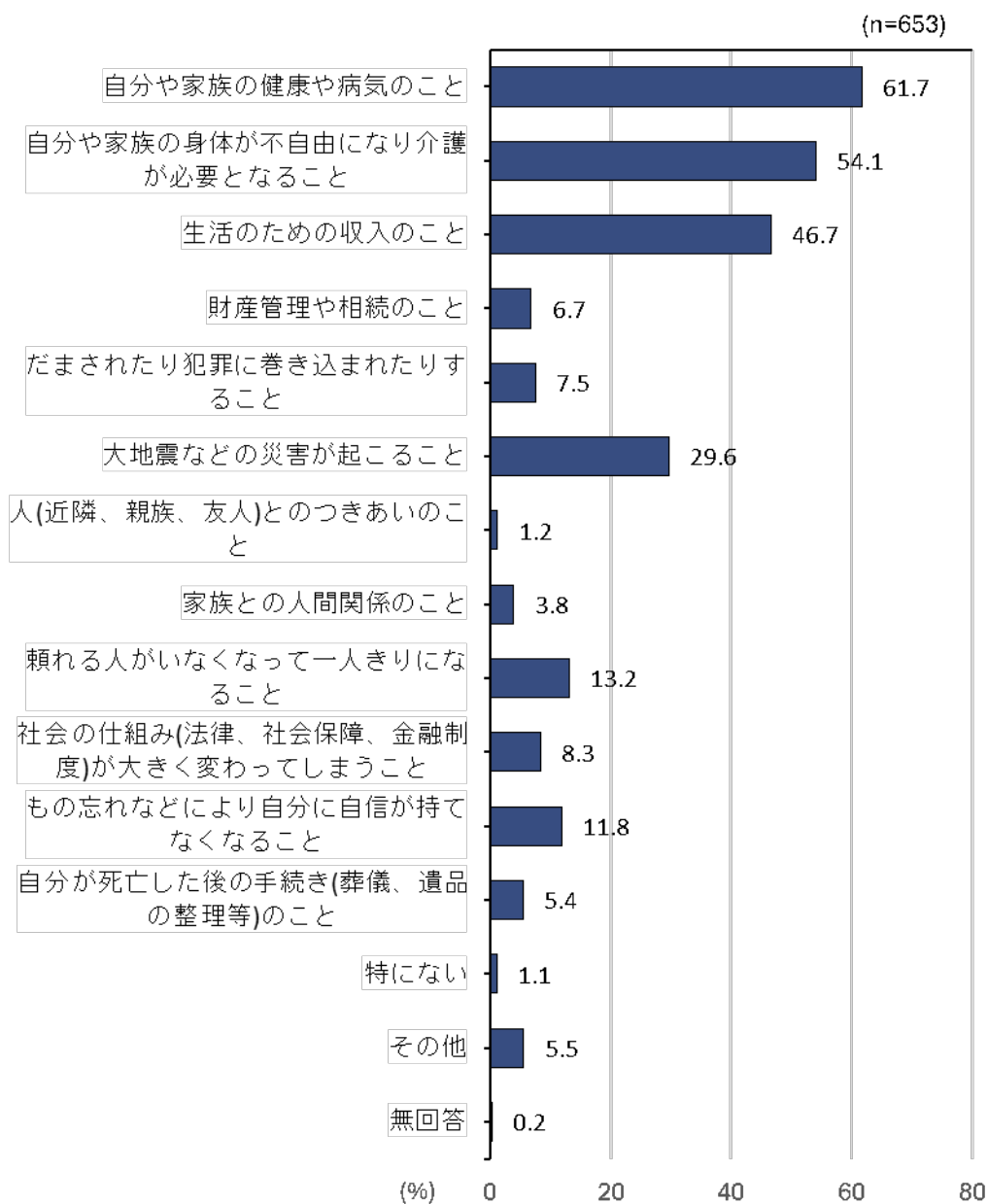
■ 必要である ▨ 必要ない ■ わからない □ 無回答



5. 将来の不安、備えについて

あなたは、ご自分の将来についてどんな不安がありますか。(〇は3つまで)

「自分や家族の健康や病気のこと」が61.7%で最も高く、次いで「自分や家族の身体が不自由になり介護が必要となること」が54.1%となっている。その他、「生活のための収入のこと」(46.7%)、「大地震などの災害が起こること」(29.6%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

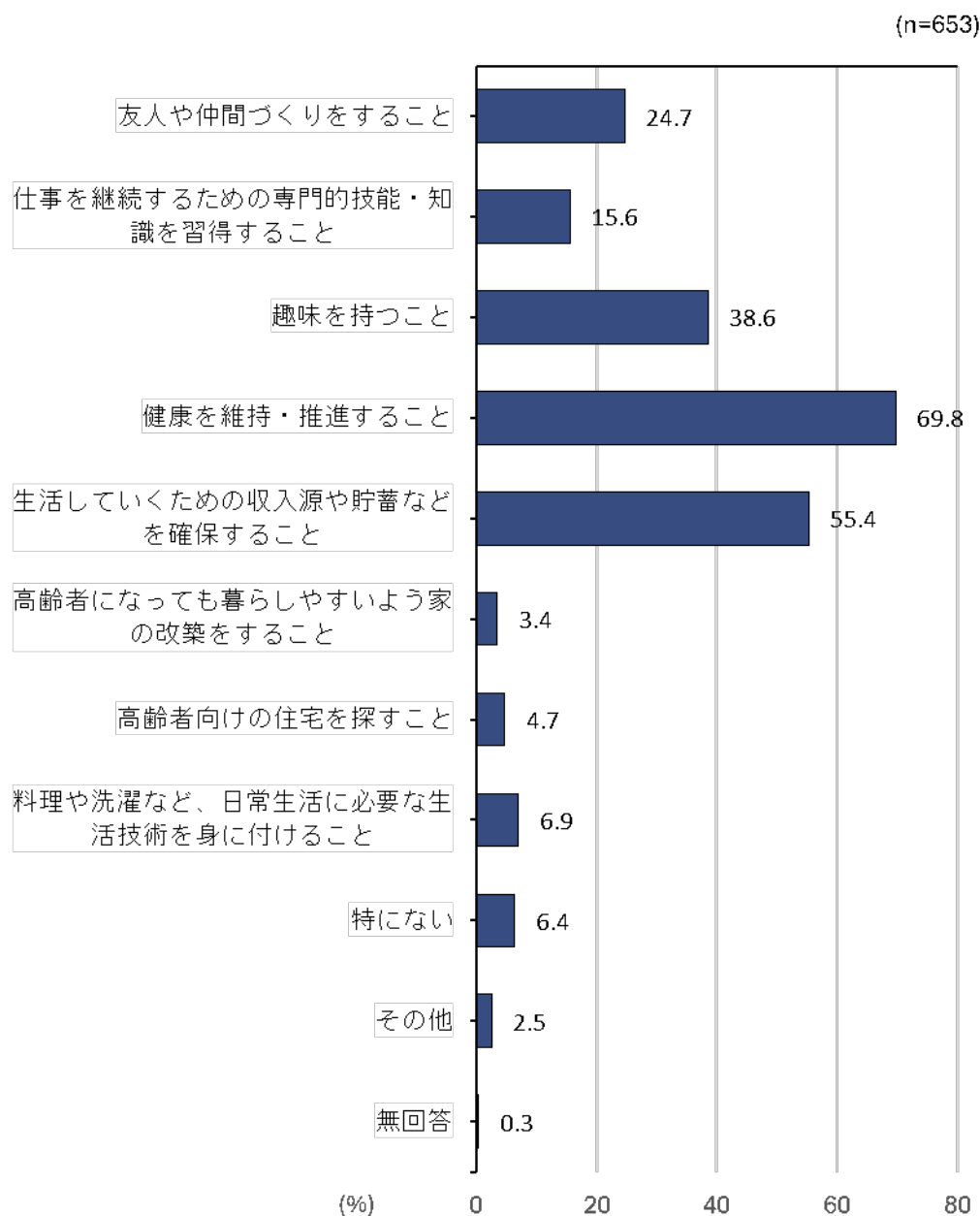
年齢別でみると、いずれの年代においても「自分や家族の健康や病気のこと」が最も高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問27								
	合計	自分や家族の健康や病気のこと	自分や家族の身体が不自由になり介護が必要となること	生活のための収入のこと	財産管理や相続のこと	だまされたり犯罪に巻き込まれたりすること	大地震などの災害が起こること	人(近隣、親族、友人)とのつきあいのこと	家族との人間関係のこと
全体	653	403	353	305	44	49	193	8	25
	100.0	61.7	54.1	46.7	6.7	7.5	29.6	1.2	3.8
40～44歳	103	68	53	62	11	11	29	-	2
	100.0	66.0	51.5	60.2	10.7	10.7	28.2	-	1.9
45～49歳	113	66	55	59	8	12	41	1	7
	100.0	58.4	48.7	52.2	7.1	10.6	36.3	0.9	6.2
50～54歳	140	83	71	70	7	4	39	1	3
	100.0	59.3	50.7	50.0	5.0	2.9	27.9	0.7	2.1
55～59歳	151	95	84	57	7	8	45	5	8
	100.0	62.9	55.6	37.7	4.6	5.3	29.8	3.3	5.3
60～64歳	142	90	87	56	11	14	37	1	5
	100.0	63.4	61.3	39.4	7.7	9.9	26.1	0.7	3.5
無回答	4	1	3	1	-	-	2	-	-
	100.0	25.0	75.0	25.0	-	-	50.0	-	-

上段:回答数 下段:%	問27							
	合計	頼れる人がいなくなっ て一人きりになること	社会の仕組み(法律、社 会保障、金融制度)が大 きく変わってしまうこと	もの忘れなどにより自 分に自信が持てなくな ること	自分が死亡した後の手 続き(葬儀、遺品の整理 等)のこと	特にな	その他	無回答
全体	653	86	54	77	35	7	36	1
	100.0	13.2	8.3	11.8	5.4	1.1	5.5	0.2
40～44歳	103	10	9	3	5	1	3	-
	100.0	9.7	8.7	2.9	4.9	1.0	2.9	-
45～49歳	113	11	13	7	5	3	3	-
	100.0	9.7	11.5	6.2	4.4	2.7	2.7	-
50～54歳	140	24	10	20	8	2	11	-
	100.0	17.1	7.1	14.3	5.7	1.4	7.9	-
55～59歳	151	26	12	23	9	1	8	-
	100.0	17.2	7.9	15.2	6.0	0.7	5.3	-
60～64歳	142	14	10	23	8	-	11	-
	100.0	9.9	7.0	16.2	5.6	-	7.7	-
無回答	4	1	-	1	-	-	-	1
	100.0	25.0	-	25.0	-	-	-	25.0

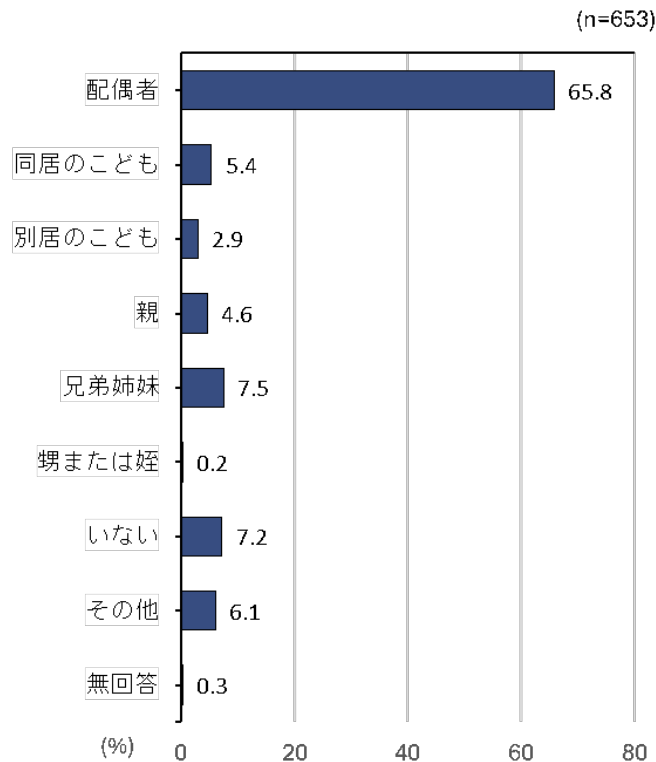
あなたは、ご自分の将来、特に老後の生活に備えて、現在どのようなことをしていますか、またはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「健康を維持・推進すること」が69.8%で最も高く、次いで「生活していくための収入源や貯蓄などを確保すること」が55.4%となっている。その他、「趣味を持つこと」(38.6%)が比較的高くなっている。



あなたの身に緊急事態が起きた時(事故等による介護を要する状態、認知症など)に、治療の方針の決定や介護サービスの利用に必要な手続き、金銭管理をしてくれる身内の方はいますか。いる場合は、主にどなたですか。(○は1つ)

「配偶者」が 65.8%と最も高く、次いで「兄弟姉妹」が 7.5%となっている。



【年齢別比較】

年齢別にみると、全ての年代で「配偶者」が 6 割以上と最も高くなっている。また、「親」は 40～44 歳で比較的高く、「兄弟姉妹」は 55～59 歳で比較的高い。なお、「いない」は各年代で 7%程度となっている。

上段:回答数	問29									
下段:%	合計	配偶者	同居のこども	別居のこども	親	兄弟姉妹	甥または姪	いない	その他	無回答
全体	653	430	35	19	30	49	1	47	40	2
	100.0	65.8	5.4	2.9	4.6	7.5	0.2	7.2	6.1	0.3
40～44歳	103	68	3	-	16	5	-	8	3	-
	100.0	66.0	2.9	-	15.5	4.9	-	7.8	2.9	-
45～49歳	113	83	3	-	3	9	-	8	7	-
	100.0	73.5	2.7	-	2.7	8.0	-	7.1	6.2	-
50～54歳	140	91	10	2	9	7	-	10	10	1
	100.0	65.0	7.1	1.4	6.4	5.0	-	7.1	7.1	0.7
55～59歳	151	99	9	5	1	18	1	11	7	-
	100.0	65.6	6.0	3.3	0.7	11.9	0.7	7.3	4.6	-
60～64歳	142	87	10	12	1	10	-	10	12	-
	100.0	61.3	7.0	8.5	0.7	7.0	-	7.0	8.5	-
無回答	4	2	-	-	-	-	-	-	1	1
	100.0	50.0	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0

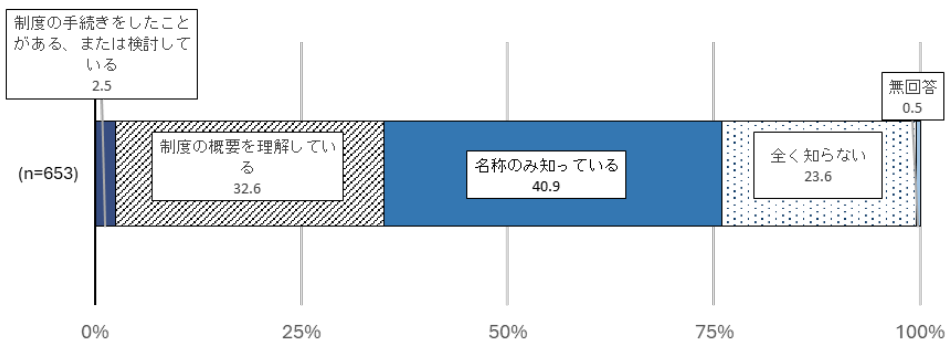
【性別比較】

性別でみると、それぞれで「配偶者」が最も高くなっている。

上段:回答数	問29									
下段:%	合計	配偶者	同居のこども	別居のこども	親	兄弟姉妹	甥または姪	いない	その他	無回答
全体	653	430	35	19	30	49	1	47	40	2
	100.0	65.8	5.4	2.9	4.6	7.5	0.2	7.2	6.1	0.3
男性	290	198	6	7	17	24	-	24	14	-
	100.0	68.3	2.1	2.4	5.9	8.3	-	8.3	4.8	-
女性	350	225	27	12	13	24	1	23	24	1
	100.0	64.3	7.7	3.4	3.7	6.9	0.3	6.6	6.9	0.3
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	8	6	-	-	-	1	-	-	1	-
	100.0	75.0	-	-	-	12.5	-	-	12.5	-
無回答	5	1	2	-	-	-	-	-	1	1
	100.0	20.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0	20.0

あなたは「成年後見制度」※について、どの程度ご存知ですか。(○は1つ)

「名称のみ知っている」が40.9%で最も高く、次いで「制度の概要を理解している」が32.6%となっている。

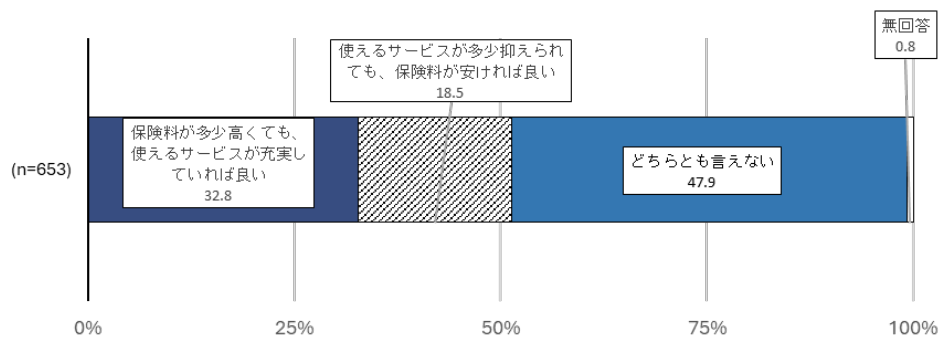


6. 介護保険制度・高齢者施策について

(1) 介護保険料と介護サービスのありかたについて

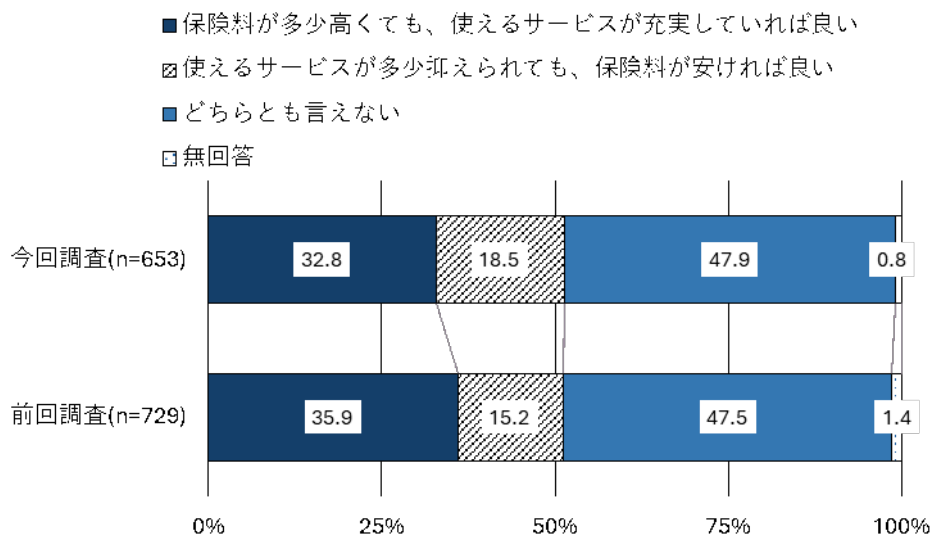
介護保険制度は、40歳以上の方から保険料を徴収して介護が必要な方にサービスを提供する費用にあてていますが、保険料と介護サービスのあり方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。（○は1つ）

「どちらとも言えない」が47.9%で最も高く、次いで「保険料が多少高くても、使えるサービスが充実していれば良い」が32.8%となっている。



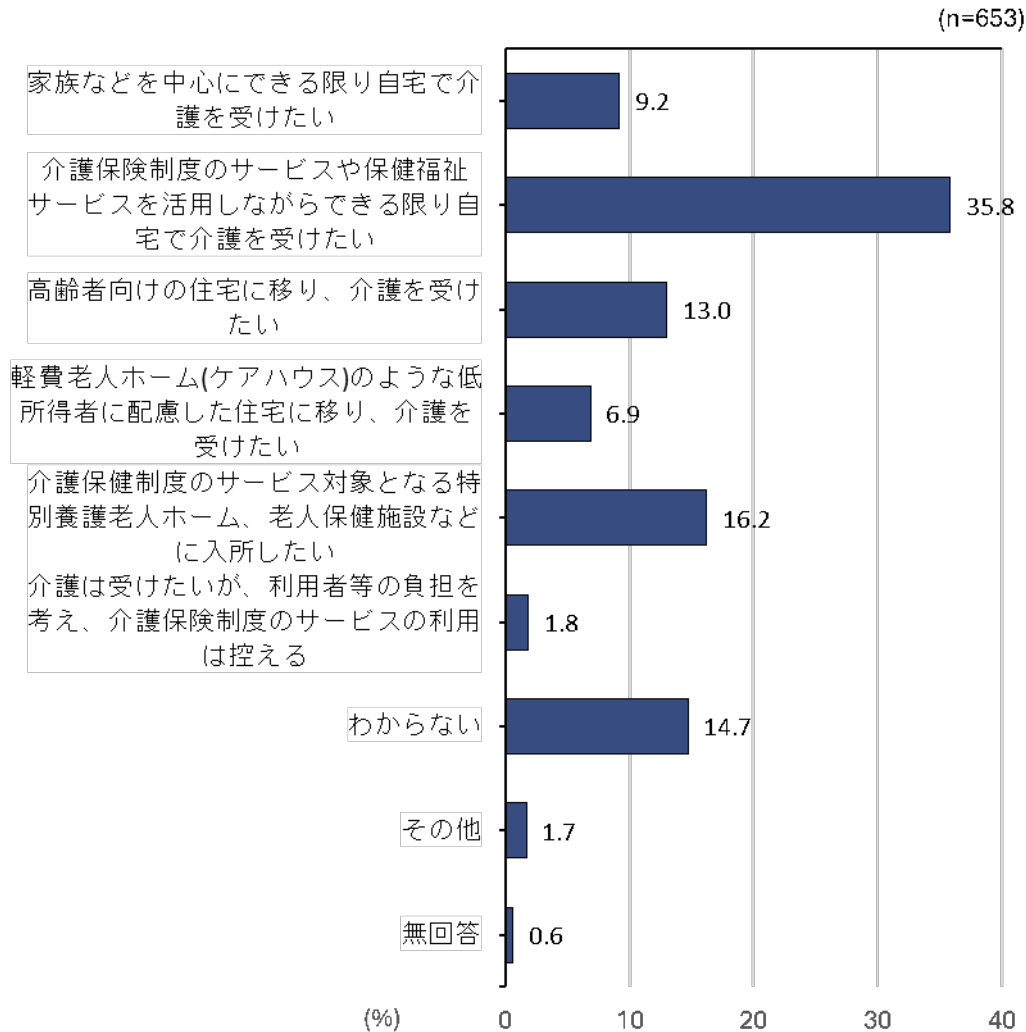
【経年比較】

前回調査と比較すると、保険料が高くてもサービス充実を重視する割合はわずかに下がり、サービス抑制でも保険料の低さを重視する割合がわずかに上昇している。



今後、もしあなたご自身が介護が必要となった場合、どのようにしたいとお考えですか。(〇は1つ)

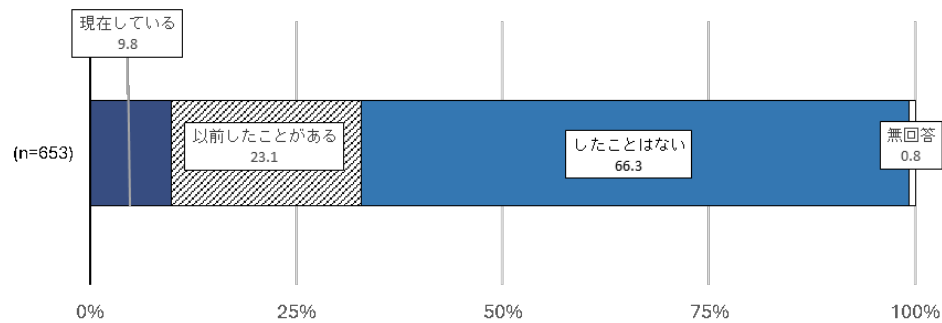
「介護保険制度のサービスや保健福祉サービスを活用しながらできる限り自宅で介護を受けたい」が35.8%で最も高く、次いで「介護保健制度のサービス対象となる特別養護老人ホーム、老人保健施設などに入所したい」が16.2%となっている。



(2) 介護の経験

あなたは、ご家族などの介護をしたことがありますか。

「したことはない」が 66.3%で最も高く、次いで「以前したことがある」が 23.1%となっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、「したことはない」が各年代で最も高くなっている。また、介護経験がある割合(「現在している」「以前したことがある」)は、40～44 歳で 14.5%、60～64 歳で 47.2%となっており、年齢が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

上段:回答数 下段:%	問33				
	合計	現在してい る	以前したこ とがある	したことは ない	無回答
全体	653 100.0	64 9.8	151 23.1	433 66.3	5 0.8
40～44歳	103 100.0	2 1.9	13 12.6	88 85.4	- -
45～49歳	113 100.0	9 8.0	16 14.2	87 77.0	1 0.9
50～54歳	140 100.0	14 10.0	34 24.3	91 65.0	1 0.7
55～59歳	151 100.0	21 13.9	37 24.5	92 60.9	1 0.7
60～64歳	142 100.0	17 12.0	50 35.2	74 52.1	1 0.7
無回答	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0

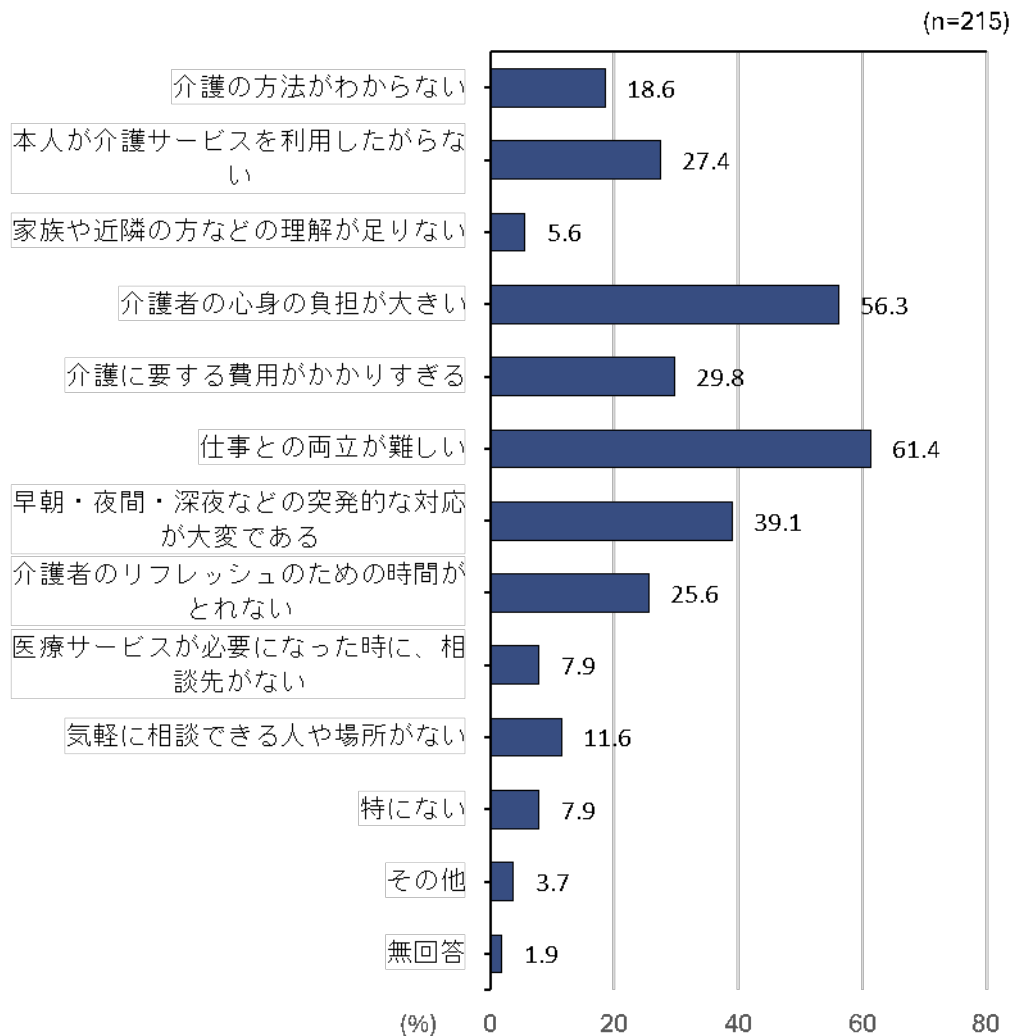
【性別比較】

性別でみると、それぞれ「したことはない」が最も高くなっている。介護経験がある割合（「現在している」「以前したことがある」）は男性が27.3%、女性が37.4%となっており、女性が10.1ポイント高い。

上段:回答数 下段:%	問33				
	合計	現在している	以前したことがある	したことはない	無回答
全体	653	64	151	433	5
	100.0	9.8	23.1	66.3	0.8
男性	290	26	53	209	2
	100.0	9.0	18.3	72.1	0.7
女性	350	36	95	217	2
	100.0	10.3	27.1	62.0	0.6
どちらとも言えない・わからない	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-
答えたくない	8	1	2	5	-
	100.0	12.5	25.0	62.5	-
無回答	5	1	1	2	1
	100.0	20.0	20.0	40.0	20.0

(「現在している」「以前したことがある」を選択された方)介護を行う上で困っていること(困ったこと)について教えてください。(○はいくつでも)

「仕事との両立が難しい」が61.4%で最も高く、次いで「介護者の心身の負担が大きい」が56.3%となっている。その他、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」(39.1%)、「介護に要する費用がかかりすぎる」(29.8%)、「本人が介護サービスを利用したがない」(27.4%)が比較的高くなっている。



【年齢別比較】

年齢別でみると、「仕事との両立が難しい」や「介護者の心身の負担が大きい」は、いずれの年代においても高くなっている。また、「介護者の心身の負担が大きい」は45～49歳で68.0%と最も高く、「仕事との両立が難しい」が50～54歳、60～64歳で高くなっている。さらに、「早朝・夜間・深夜などの突発的な対応が大変である」が50～54歳で高く、「本人が介護サービスを利用したがない」は60～64歳で高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問33-1													
	合計	介護の方法 がわからない	本人が介護 サービス を利用した がない	家族や近隣 の方などの 理解が足り ない	介護者の心 身の負担が 大きい	介護に要す る費用がか かりすぎる	仕事との両 立が難しい	早朝・夜 間・深夜な どの突発的 な対応が大 変である	介護者のリ フレッシュ のための時 間がとれな い	医療サービ スが必要に なった時 に、相談先 がない	気軽に相談 できる人や 場所がない	特にない	その他	無回答
全体	215 100.0	40 18.6	59 27.4	12 5.6	121 56.3	64 29.8	132 61.4	84 39.1	55 25.6	17 7.9	25 11.6	17 7.9	8 3.7	4 1.9
40～44歳	15 100.0	4 26.7	4 26.7	1 6.7	6 40.0	5 33.3	9 60.0	6 40.0	2 13.3	1 6.7	2 13.3	2 13.3	2 13.3	-
45～49歳	25 100.0	5 20.0	4 16.0	-	17 68.0	4 16.0	14 56.0	9 36.0	8 32.0	3 12.0	8 32.0	-	1 4.0	1 4.0
50～54歳	48 100.0	10 20.8	12 25.0	2 4.2	27 56.3	13 27.1	31 64.6	22 45.8	15 31.3	3 6.3	4 8.3	2 4.2	1 2.1	1 2.1
55～59歳	58 100.0	9 15.5	14 24.1	7 12.1	27 46.6	20 34.5	34 58.6	22 37.9	13 22.4	5 8.6	6 10.3	5 8.6	2 3.4	2 3.4
60～64歳	67 100.0	12 17.9	24 35.8	2 3.0	43 64.2	20 29.9	43 64.2	24 35.8	16 23.9	5 7.5	4 6.0	8 11.9	2 3.0	-
無回答	2 100.0	-	1 50.0	-	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	-	1 50.0	-	-	-

【性別比較】

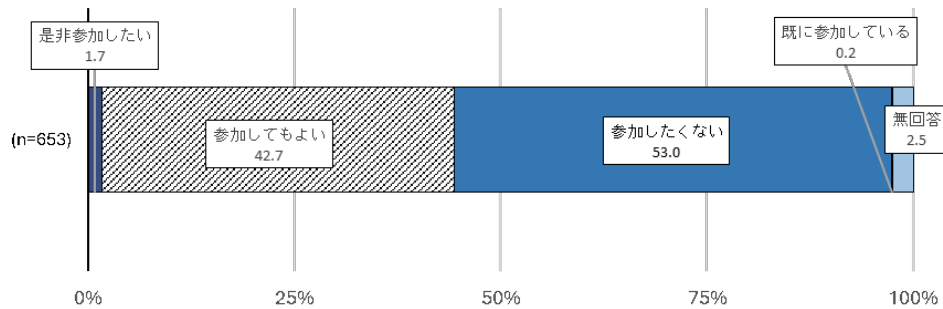
性別でみると、「仕事との両立が難しい」や「介護者の心身の負担が大きい」がそれぞれ高くなっている。「介護者のリフレッシュのための時間がとれない」は女性が28.2%、男性が21.5%となっており、女性の方がやや高くなっている。

上段:回答数 下段:%	問33-1													
	合計	介護の方法 がわからない	本人が介護 サービス を利用した がない	家族や近隣 の方などの 理解が足り ない	介護者の心 身の負担が 大きい	介護に要す る費用がか かりすぎる	仕事との両 立が難しい	早朝・夜 間・深夜な どの突発的 な対応が大 変である	介護者のリ フレッシュ のための時 間がとれな い	医療サービ スが必要に なった時 に、相談先 がない	気軽に相談 できる人や 場所がない	特にない	その他	無回答
全体	215 100.0	40 18.6	59 27.4	12 5.6	121 56.3	64 29.8	132 61.4	84 39.1	55 25.6	17 7.9	25 11.6	17 7.9	8 3.7	4 1.9
男性	79 100.0	14 17.7	22 27.8	4 5.1	47 59.5	23 29.1	50 63.3	31 39.2	17 21.5	7 8.9	9 11.4	6 7.6	1 1.3	2 2.5
女性	131 100.0	26 19.8	37 26.7	8 6.1	70 53.4	36 27.5	79 60.3	50 38.2	37 28.2	10 7.6	15 11.5	11 8.4	7 5.3	2 1.5
どちらとも言えない・ わからない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
答えたくない	3 100.0	-	2 66.7	-	3 100.0	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	-	1 33.3	-	-	-
無回答	2 100.0	-	-	-	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-	-

(3) ボランティアの参加意向

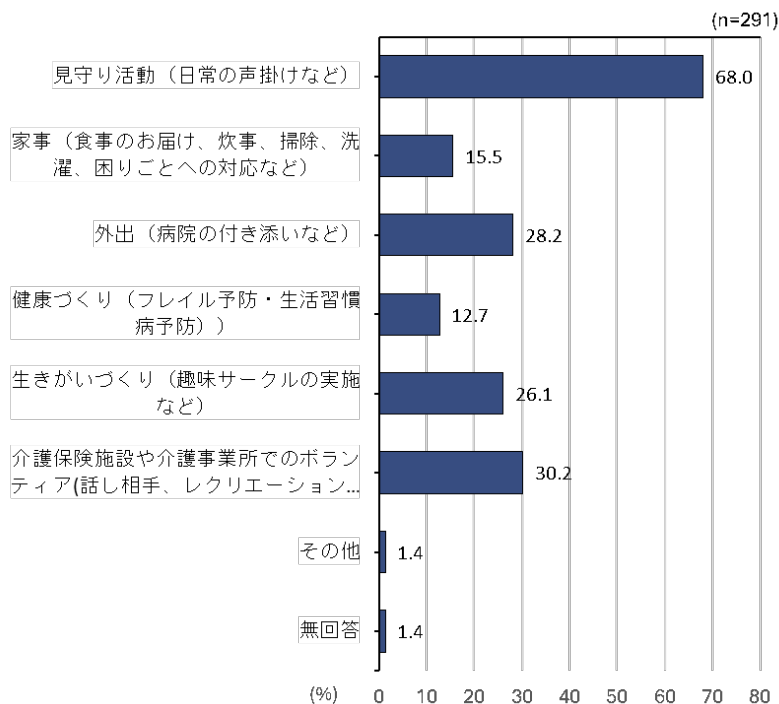
支援を必要とする高齢者を支える地域のボランティア活動があれば、あなたはその活動に支援者として参加してみたいと思いますか。

「参加したくない」が53.0%で最も高く、次いで「参加してもよい」が42.7%となっている。



(「参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を選択された方)支援を必要とする高齢者を支える地域のボランティア活動では、支援者としてどの活動に参加したいですか。また、どの活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

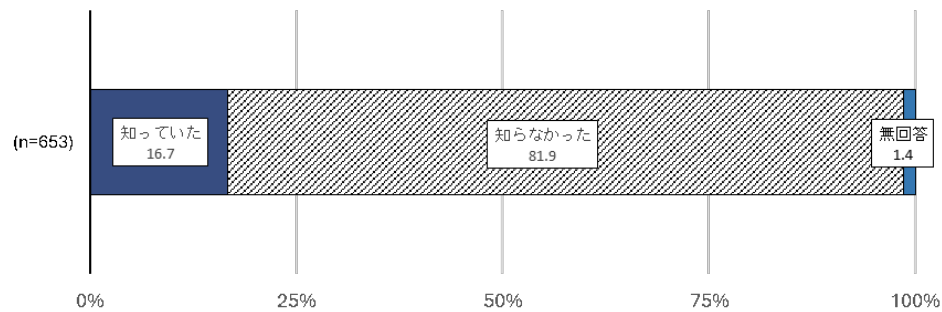
「見守り活動(日常の声掛けなど)」が68.0%で最も高く、次いで「介護保険施設や介護事業所でのボランティア(話し相手、レクリエーションの補助、職員の補助など)」が30.2%となっている。その他、「外出(病院の付き添いなど)」(28.2%)、「生きがいづくり(趣味サークルの実施など)」(26.1%)が比較的高くなっている。



(4) 高齢者外出支援事業について

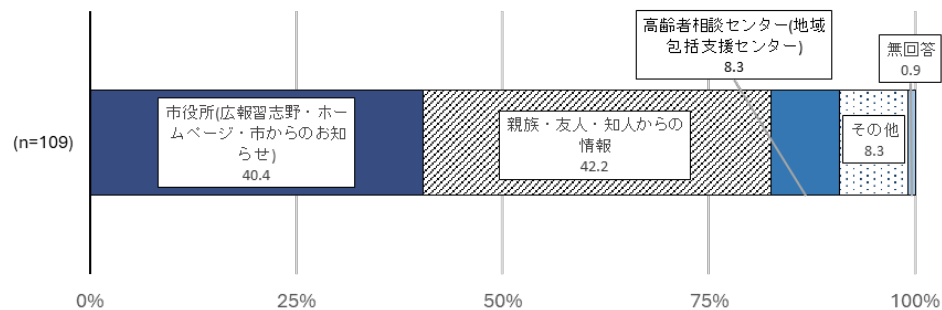
高齢者外出支援事業についてうかがいます。

「知らなかった」が81.9%で最も高く、次いで「知っていた」が16.7%となっている。



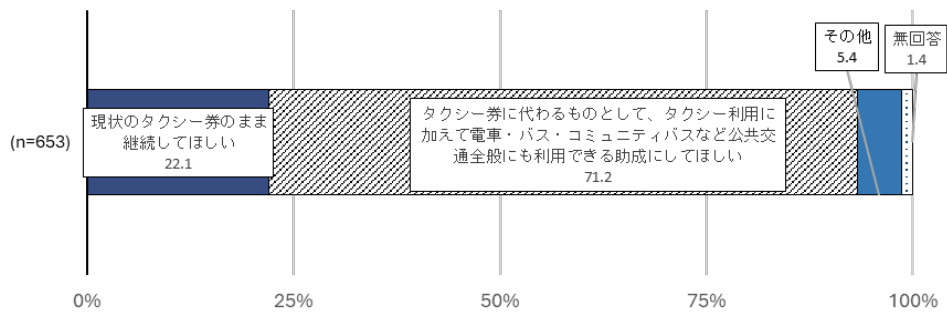
(「知っていた」を選択された方)本事業を何で知りましたか。

「親族・友人・知人からの情報」が42.2%で最も高く、次いで「市役所(広報習志野・ホームページ・市からのお知らせ)」が40.4%となっている。



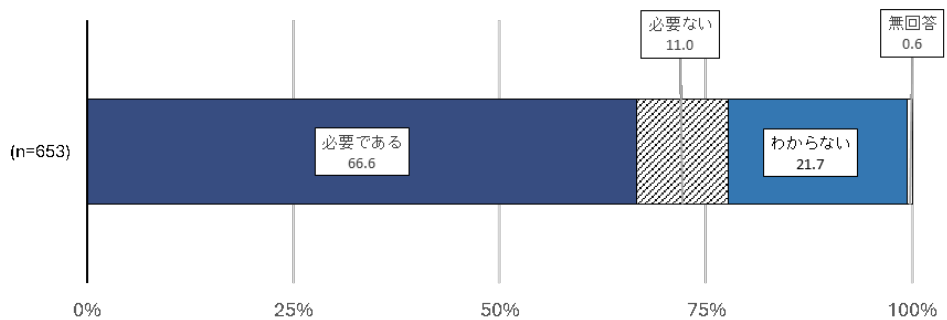
より良い高齢者の外出支援策とするには、今後どのような事業の見直しを行うのが良いと思いますか。

「タクシー券に代わるものとして、タクシー利用に加えて電車・バス・コミュニティバスなど公共交通全般にも利用できる助成にしてほしい」が71.2%で最も高く、次いで「現状のタクシー券のまま継続してほしい」が22.1%となっている。



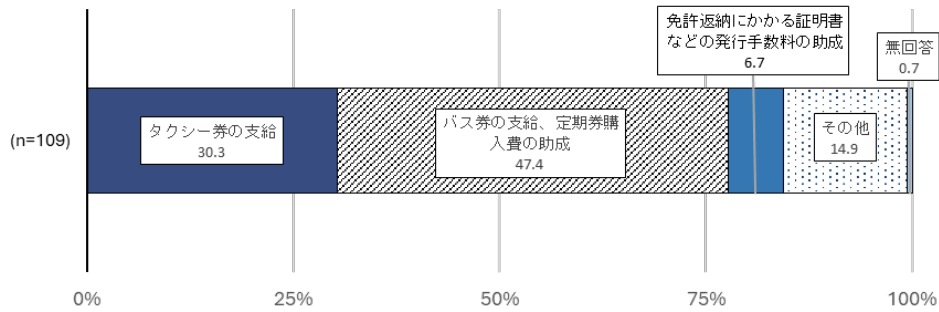
近年、高齢者ドライバーが当事者となる痛ましい事故が多発し、運転免許証の自主返納に大きな関心が集まっています。本市の公共交通は比較的充実していることから、現時点でタクシー券等の支給は行っていないですが、今後、運転免許証を自主返納した方に対する税金を使った支援は必要であると思いますか。

「必要である」が66.6%で最も高く、次いで「わからない」が21.7%となっている。



（「必要である」を選択された方）どのような支援が必要であると思いますか。

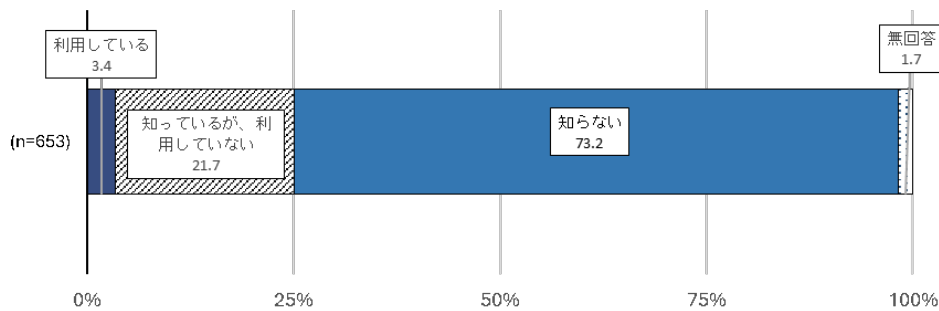
「バス券の支給、定期券購入費の助成」が47.4%で最も高く、次いで「タクシー券の支給」が30.3%となっている。



（5）高齢者相談センターの相談窓口の認知度

高齢者相談センターで、センター内での生活支援や介護予防についての相談ができることをご存じですか。もしくは利用していますか。

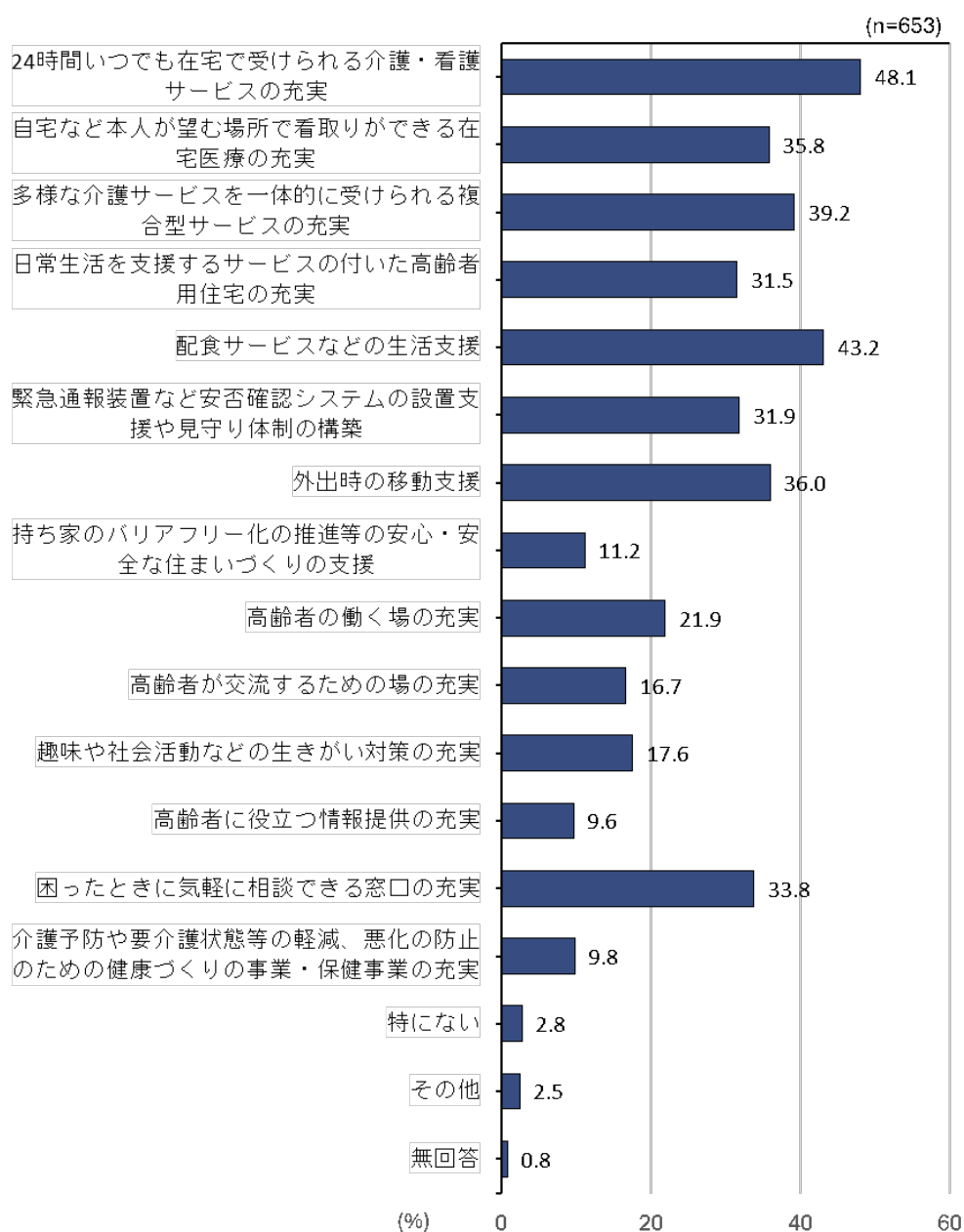
「知らない」が73.2%で最も高く、次いで「知っているが、利用していない」が21.7%となっている。



(6) 高齢者が地域で在宅生活を続けるために必要な施策

あなたは、高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を続けていくために、主としてどのような施策が必要であると考えますか。(〇は5つまで)

「24時間いつでも在宅で受けられる介護・看護サービスの充実」が48.1%で最も高く、次いで「配食サービスなどの生活支援」が43.2%となっている。その他、「多様な介護サービスを一体的に受けられる複合型サービスの充実」(39.2%)、「外出時の移動支援」(36.0%)、「自宅など本人が望む場所で看取りができる在宅医療の充実」(35.8%)、「困ったときに気軽に相談できる窓口の充実」(33.8%)、「緊急通報装置など安否確認システムの設置支援や見守り体制の構築」(31.9%)、「日常生活を支援するサービスの付いた高齢者用住宅の充実」(31.5%)が比較的高くなっている。



7. ご意見・ご要望

最後に、市の高齢者保健福祉施策についてご意見、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

① 情報提供・周知方法の改善

- ・ 介護が必要になった時にまずどこに相談すればよいかわからない。インターネットでの情報へのアクセス入口をわかりやすくしてほしい。
- ・ 市のホームページは最初のページが暗く、選択肢の文字も小さくわかりにくいいため改善してほしい。
- ・ 施策の周知方法をわかりやすくし、予算の使途をホームページからアクセスできるようにしてほしい。
- ・ 市の高齢者健康福祉施策についての詳しいパンフレットを整備し、65歳以上へ毎年送付してほしい。
- ・ 介護サービスを含め市民への周知が不足している。知っている人だけが得をしている状況を改善してほしい。
- ・ スマホが使えない情報弱者の高齢者に対し、地域 TV や紙媒体など多様な手段で情報を届けてほしい。
- ・ 地域包括支援センターの存在を知らない人が多い。もっと周知されるべき機関だと思う。
- ・ 高齢者が受けられる福祉サービスを把握できていないため、説明会の開催などで理解を深める機会を設けてほしい。
- ・ アンケート結果と市の施策を広報等で市民に知らせてほしい。
- ・ 認知症かなと思った時にまずどこに相談すべきかを理解している人は非常に少なく、初動で躓いている人が多い。相談先を明確に周知してほしい。
- ・ 若いうちから認知症について理解が広まることはよいことで、学校での認知症講習などを検討してほしい。
- ・ 子育て支援だけでなく、高齢者・障害者の福祉施策の具体的内容を一般市民に徹底周知してほしい。
- ・ タウンミーティングなど話し合いの機会もほしい。

② 相談窓口・介護者支援の充実

- ・ 気軽に相談できる窓口や個々に寄り添う支援者がいるとよい。他の相談窓口で冷やかな対応をされ辛かった経験がある。経験者を置くなど親身な相談体制を整えてほしい。
- ・ 介護が必要になった時に何ができるのか全くわからず、問い合わせてもたらい回しで何も利用できなかった経験がある。習志野市では親身な対応を期待している。

- ・ 介護で精神的に大変苦しかった経験がある。相談にのってもらえる窓口と実際に手を貸してもらえる支援があると心が軽くなる。
- ・ 多様な介護サービスを気軽に相談・選択できるような体制を整えてほしい。
- ・ 遠距離介護で精神的・身体的負担を抱えながら頑張っている人が多い。援助でなくても相談できる窓口があるとよい。
- ・ 単身世帯で老後の経済面への不安が大きく、老後に金銭的負担なく相談できる場所があると助かる。
- ・ 家族など近親者に介護が必要になった際、自力での対応は困難だと感じている。相談支援の充実を。
- ・ 利用者と担当ケアマネジャーのマッチングがスムーズにできるとよい。相性がある場合にスムーズに交代できる仕組みもお願いしたい。
- ・ 要介護認定が下がり必要なサービスを受けられなくなるケースがある。ケアマネジャー・デイ職員・訪問看護師などの現場の意見を認定に反映してほしい。
- ・ 要介護度の変更は元に戻せないなど柔軟な対応が難しいと聞いた。十分な説明や体験の機会があるとよい。介護される本人も介護する側もより良い生活を送れる環境整備を。
- ・ 各所でスタッフが退職するたびに関係を一から築き直さなければならない。介護スタッフへの支援も考慮してほしい。
- ・ 高齢者が本当に何に困っているのか、現場の声をきちんと聞いて施策に反映してほしい。

③ 施設・サービスの拡充と費用負担

- ・ 特養の数が少なく入所できないため離職して自宅介護を余儀なくされた事例がある。特養をはじめとする施設を充実させてほしい。
- ・ 高齢者が安心して生活できる施設の数が圧倒的に足りない。一人暮らしや老々介護問題の軽減にもつながる。
- ・ 安くて安心して入れる施設が必要。認知症対応施設も不足している。
- ・ 介護施設の老朽化が進んでいるが補助金が使えない。施設改修への補助金対応を市で検討してほしい。
- ・ 施設費用を手頃にしてほしい。利用料がまちまちで年金ではまかなえないケースが多い。
- ・ 施設に入所すると過剰サービスを目にする。費用と内容の適正化を求める。
- ・ 介護サービス提供者への十分な待遇があってこそサービスが成り立つ。介護職の給与改善が必要。
- ・ 提供者への適切な待遇と同時に、利用者へのルール説明など対等な関係づくりも大事。
- ・ 病院・高齢者施設の逼迫した現状を変えなければ、どんな施策も現場(家族・救急・警察)が疲弊するだけ。
- ・ サービスの一元管理・集約化を進め、行政の無駄を省いてほしい。

- ・ 安定した介護保険制度の確立と、住み慣れた家で充実した介護・看護を受けられる体制を整えてほしい。

④ 交通・移動支援

- ・ タクシー券ではなく上限ありの割引カードにすると使いやすいのではないかな。
- ・ バスが無料または低価格で利用できるとよい。東京都シルバーパスのようなバス乗り放題パスの検討を。
- ・ 70歳以上へ公共交通機関の割引制度の検討を。免許返納しやすいよう低価格のバス路線充実も。
- ・ コミュニティバスが自宅近くを通るコースを検討してほしい。東習志野地区から実籾・八千代台へのアクセス改善と増便を。
- ・ バス停までの道の段差が激しく車いすで通行困難。介助する・される立場で実際に体験してほしい。
- ・ 津田沼駅のエスカレーター増設・手すり強化・ベンチ設置など、足の不自由な人に温かい街になってほしい。
- ・ 車椅子が安全に通れる道づくりを望む。
- ・ 自動運転・自動ブレーキ車両への補助充実と介護タクシーのサービス拡大を望む。
- ・ 急いで出られない・バスで急かされるなど、元気でない人が生活しにくい場面が多い。ゆっくりした生活も許される環境になってほしい。
- ・ 足が不自由でも気軽に外出できる環境が整っていないため、閉じこもりが認知症発症や身体機能低下につながる悪循環がある。
- ・ 高齢になり自力でできなくなった時に気軽に頼める「お手伝い券」のような仕組みを検討してほしい。
- ・ 単身生活をしており、高齢になった時に不調があっても気軽に話せたり困りごとを手伝ってもらえる仕組みがほしい。
- ・ 津田沼駅南側の歩道整備、自転車走行エリアの整備、駅前の活性化、市役所分所の機能充実なども望む。
- ・ 高齢者が安心して暮らせる市政を作り、市側・市民側それぞれができることを明確にしてほしい。

⑤ 介護予防・健康増進

- ・ 健康寿命にフォーカスした施策を希望する。
- ・ 介護予防段階での支援を充実してほしい。スポーツクラブ費用への助成があれば筋力維持・介護予防につながる。
- ・ 介護になる前の予防段階の人への声かけや相談窓口・予防サークルの周知が有効。

- ・ 認知症の早期発見のために、在宅での定期的な認知症検査受診を促してほしい。
- ・ 介護予防事業の充実により健康寿命を延ばす施策を望む。
- ・ 高齢者が生き甲斐を感じられるサークル活動などが充実するとよい。交流・認知予防・見守りにもつながる。役所への掲示など周知も。
- ・ 犬や猫と暮らすことは高齢者のメンタルに良い。ペットと住める高齢者向け住宅や、施設でのペット飼育の取り組みがあると嬉しい。

⑥ 孤立防止・見守り・地域つながり

- ・ 高齢になると本人が相談に行くことが難しく、子どもが近くにいらない人は孤立していく。さまざまなサービスを利用できる仕組みが必要。
- ・ 単身高齢者の生存確認・財産手続き・死後の手続きなど、見守りサービスの充実を求める。
- ・ 身寄りがない状態で認知症になった場合や死亡後の手続きへの不安が切実。元気なうちに相談・登録できて定期的に気にかけてもらえる機関やシステムがほしい。
- ・ 独身単身の高齢者が直面する保証人・死亡時手続きなどの課題への行政対応を充実させてほしい。
- ・ 高齢者の GPS 活用による行方不明・迷子防止対策の検討を進めてほしい。
- ・ 近所で家族・行政から放置されているとみられる高齢者を複数見かける。何らかの対策を求める。
- ・ 施策について地域で交流しながら理解を深める場を増やしてほしい。
- ・ 高齢者が異なる地域・外国の方と気軽に交流できる機会が増えれば良い刺激になる。コストのかからない方法で。
- ・ 民生委員のなり手が少ない中、問題のある民生委員への対応方法を住民が知れる仕組みが必要。
- ・ 見守りや介護予防などに AI を活用した支援技術の発展が望ましい。
- ・ 防犯カメラの設置を望む。詐欺や不審訪問など犯罪に巻き込まれないための対策も検討してほしい。
- ・ 高齢化で町会役員のなり手が減っているため、町会の在り方を見直してほしい。

⑦ 高齢者の就労・社会参加

- ・ まだ働く意欲のある高齢者が働く機会を失っている。生き生きと働きたい高齢者の雇用機会を整えてほしい。
- ・ 60 歳を過ぎると有資格でも求人がほとんどなく、月々の収入を上げられる場が必要。
- ・ 高齢者が自分の知識・技能を活かして収入を得られる場の提供が生き甲斐につながる。
- ・ ボランティアではなく少額でも報酬があれば、元気な高齢者が弱っている高齢者を助ける仕組みへの参加者が増える。

- ・ ボランティア活動を「福祉ポイント」として積み立て、施設利用時に還元できる仕組みがあるとよい。
- ・ 高齢者自身も支援に参加し、活躍の場や社会参画の機会になるとよい。
- ・ 近所で高齢者見守りをされているボランティアへの報酬が年間 5000 円では少なすぎる。もう少し報酬が必要。
- ・ 無償ボランティアを続けるには参加者側にもメリットが必要。一方で過剰な無償支援は資源の無駄遣いにもなりかねない。
- ・ ボランティアを呼びかける前に、働ける高齢者に正しい賃金で労働できる場の提供こそ必要ではないか。

⑧ 医療・福祉制度について

- ・ 将来自分が高齢者になった時に同じサービスを受けられるか疑問。無駄のない持続可能な施策をお願いしたい。
- ・ 現高齢者への支援は必要だが、若い世代への税負担が大きすぎて老後の備えができないことへの不安と不満が増している。
- ・ 高齢者が医療費を逼迫させている一因となっていることは問題。若い世代の負担を軽減させる取り組みのほうが重要との意見がある。
- ・ 必要以上の医療費助成や現役世代の負担増は避けてほしい。
- ・ 看護師・ケアマネジャー・ヘルパーの医療行為の範囲を拡張し、現場が効率的に動ける制度整備を望む。
- ・ 同伴受診を促す仕組みや服薬・塗布介助に特化した訪問支援システムがあれば、高齢者の受診理解と安全が高まる。
- ・ 災害時、避難所では生活できない状態の方への個人情報を守りながら対応できる仕組みを行政として整備してほしい。
- ・ 住民税が上がったとしても財源を増やし、介護関連施策を充実させてほしい。
- ・ 他市町村との比較を踏まえ、市全体の介護・高齢者施策の水準を高めてほしい。
- ・ 本人の意思による尊厳死・自然死の受け入れや安楽死制度についての検討を求める。
- ・ アンケートコストに見合う調査結果と市政の改善を切に願う。高齢者介護をボランティアのみで賄う発想は改めてほしい。

⑨ 本調査へのご意見

- ・ アンケート自体が長く読むだけでも大変。内容をもう少し精査したほうがよい。